

# 第3次成田市食育推進計画 (素案)

令和4(2022)年12月  
成田市



# 目次

<b>第1章 計画策定にあたって</b> . . . . .	1
1. 計画策定の趣旨 . . . . .	1
2. 計画の位置付け . . . . .	2
3. 計画期間 . . . . .	2
4. 前計画の達成状況 . . . . .	3
<b>第2章 食を取り巻く現状と課題</b> . . . . .	5
1. 成田市の概要 . . . . .	5
2. 食に関する意識調査 . . . . .	15
3. ワークショップの開催 . . . . .	43
4. 今後の課題 . . . . .	45
<b>第3章 計画の基本的な考え方</b> . . . . .	50
1. 基本理念 . . . . .	50
2. 基本目標 . . . . .	51
3. 目標値一覧 . . . . .	53
4. 体系図 . . . . .	55
<b>第4章 具体的な取り組み</b> . . . . .	58
1. 家庭における望ましい食習慣の定着 . . . . .	58
2. 食に関する体験活動の推進 . . . . .	61
3. 学校・幼稚園・保育所等における食育の推進 . . . . .	62
4. 地域における食生活改善や企業・大学等と連携した食育の推進	65
5. 地産地消による交流の促進 . . . . .	67
6. 食の安全・安心への理解 . . . . .	69
7. 食を育む環境への理解や災害時を意識した食育の推進 . . . . .	71
8. 郷土料理による食文化の伝承 . . . . .	73
9. 食育に関する情報の提供 . . . . .	74
■ ライフステージでみる食育 . . . . .	75

<b>第5章 計画の推進</b> . . . . .	76
1. ネットワーク体制 . . . . .	76
2. 計画の進行管理 . . . . .	78

# 第1章 計画策定にあたって

## 1 計画策定の趣旨

国が「食育基本法」を施行してから17年余が経過しました。以前は「食育」という言葉にあまり馴染みがありませんでしたが、現在では多くの方が理解を示し、食事や健康づくりへの関心が高まり、生活習慣病の予防や改善のため食生活や運動に気をつける人が増えてきています。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症をはじめとする社会環境の変化により、食生活をめぐる環境が大きく変化している中で、栄養バランスの偏った食事や不規則な時間での食事の増加、肥満や生活習慣病（がん、心疾患など）の増加、食品ロスなどが問題になるとともに、食を取り巻く環境への関心も高まっています。

そのような中、国では、令和3（2021）年3月に「第4次食育推進基本計画」を策定し、千葉県でも、令和4（2022）年3月に「第4次千葉県食育推進計画」を策定し、『県民一人一人が主役となり、健康で笑顔あふれる暮らし』の実現を目指しています。

本市では、平成30（2018）年3月に「第2次成田市食育推進計画」を策定し、食育推進についての市民意識の高揚を図るとともに、市民一人一人が、自らの食について考える機会や、食に関する様々な知識と食を選択する力を身につけることができるよう取り組んできました。また、家庭や地域、学校、幼稚園、保育所、生産者団体、食品関連事業者、ボランティア等の様々な立場の関係者と連携・協力を図ることで、食育活動を推進してきました。

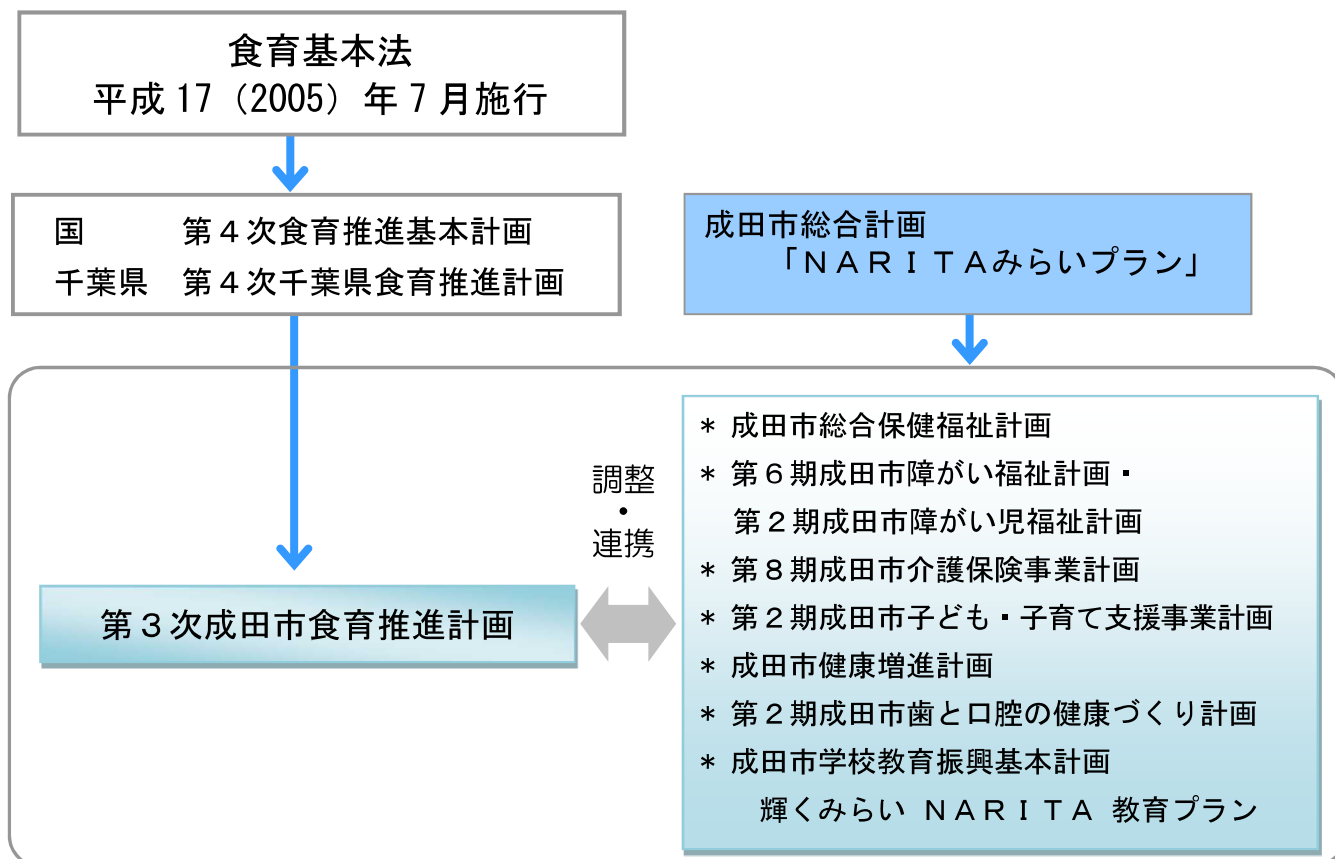
第3次の計画策定にあたっては、第2次の食育推進計画の基本理念を継承した中で、十分な成果が得られなかった目標及び各課題への引き続いての対応や、新たな取り組みを盛り込むことで、本市の特性を活かし、市民一人一人が主役となった食育を推進します。

### ★食育とは・・・

食育は、生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきもの。様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てること。

## 2 計画の位置付け

本計画は、平成 17（2005）年 7 月に施行された食育基本法第 18 条「市町村食育推進計画」の規定に基づく計画として位置付け、千葉県食育推進計画や市の各種計画との整合性を図るものとします。



## 3 計画期間

本計画の期間は、令和 5（2023）年度から令和 9（2027）年度までの 5 年間とします。  
なお、計画期間中に社会情勢の変化などが生じた場合には、必要に応じて見直すこととします。

令和 3 (2021)年	令和 4 (2022)年	令和 5 (2023)年	令和 6 (2024)年	令和 7 (2025)年	令和 8 (2026)年	令和 9 (2027)年
（国）第 4 次食育推進基本計画						
	（県）第 4 次千葉県食育推進計画					
		（市）第 3 次成田市食育推進計画				

## 4 前計画の達成状況

### (1) 指標の達成状況

前計画については、成果や達成度を指標により把握できるよう 18 項目の数値目標を設定しています。今回実施したアンケート調査の結果を受けての、数値目標の達成状況は次のとおりです。

#### 基本目標 1 市民への食育の普及

指標	対象	策定時 (H28)	目標値 (R4)	現状値 (R4)	国・県現状値 (R元またはR2)	評価
食育に関心を持っている人の割合	20歳以上	74.4%	90%以上	78.4%	国 83.2% 県 68.1%	△
食育を実践している人の割合	20歳以上	52.8%	60%以上	56.0%	-	△

食育への関心度及び実践している人の割合については高まっていますが、目標値を達成できていない状況です。食育への関心が、適正な食生活への実践に結びつくことから、引き続き食育の普及・啓発に努めていく必要があります。

#### 基本目標 2 健全な食生活で、元気なからだと心を育む

指標	対象	策定時 (H28)	目標値 (R4)	現状値 (R4)	国・県現状値 (R元またはR2)	評価
「食事バランスガイド」等の食生活上の指針を参考にしている人の割合	20歳以上	48.1%	60%以上	47.9%	-	●
1日2回以上栄養バランスのとれた食事を心がけている人の割合	20歳以上	72.2%	80%以上	66.9%	-	●
朝食を欠食する人の割合	小学5年生	3.2%	0%を目指す	3.7%	国 4.6%※1 県 3.1%	●
	中学2年生	5.7%	0%を目指す	4.6%	国 6.9%※2 県 5.1%	△
	20歳代男性	26.1%	13%以下	9.7%	国 21.5% 県 22.5%	○
	20歳代女性	19.5%	9%以下	24.4%		●
	30歳代男性	16.7%	8%以下	13.5%		△
30歳代女性	7.0%	3%以下	8.0%	●		
週1回も家族や友人と食事をしていない人の割合	20歳以上	7.1%	5%以下	11.8%	-	●
	60歳代	8.1%	5%以下	11.6%	-	●

国における現状値・・・※1 小学6年生、※2 中学校3年生のデータ

「食事バランスガイド」等の食生活上の指針を参考にしている人、1日2回以上栄養バランスのとれた食事を心がけている人の割合は減少しており、目標値を達成できていない状況となります。また、朝食の欠食については、20歳代の男性で目標値を達成できている一方、その他の対象区分については、目標値を達成できていない状況となっています。なお、中学2年生、30歳代の男性では、欠食率が低下しており改善傾向にあることから、達成できていない対象区分も含め、学校での取り組みや若い世代への欠食の対応を引き続き行う必要があります。

### 基本目標3 安全・安心な食の環境づくり

指標	対象	策定時 (H28)	目標値 (R4)	現状値 (R4)	国・県現状値 (R元またはR2)	評価
食品を購入する際、栄養成分表示を参考にしている人の割合	20歳以上男性	47.6%	60%以上	47.3%	-	●
	20歳以上女性	58.4%	70%以上	58.4%		●
食べ残しなどを減らす努力をしている人の割合	20歳以上	54.1%	70%以上	51.2%	-	●

20歳以上の食品を購入する際、栄養成分表示を参考にしている人、食べ残しなどを減らす努力をしている人の割合は減少しており、目標値を達成できていない状況となります。食品を購入する際、栄養成分表示を参考にしている人の割合を増加させることで、健康的な食生活の実現に寄与することから、引き続き取り組みを推進していきます。また、食べ残しなどを減らす努力をしている割合を増加させることで、SDGsの推進にも寄与することから、食の大切さを伝えていけるよう取り組みを推進します。

### 基本目標4 地域の食文化の魅力発信

指標	対象	策定時 (H28)	目標値 (R4)	現状値 (R4)	国・県現状値 (R元またはR2)	評価
成田市の地場産物の認知度	小学5年生 中学2年生	49.2%	80%以上	77.8%	-	△
	20歳以上	41.8%	70%以上	62.7%	-	△
成田市の郷土料理の認知度	20歳以上	15.7%	30%以上	15.0%	-	●

本市の地場産物の認知度は、全対象区分で認知度が上昇しています。一方、郷土料理の認知度については減少しており、地場産物や郷土料理を多くの人に知ってもらうことができるよう、引き続き普及に努めていく必要があります。

○・・・達成できた項目

△・・・目標は達成していないものの改善している項目

●・・・未達成の項目



# 第2章 食を取り巻く現状と課題

## 1 成田市の概要

### (1) 人口・世帯

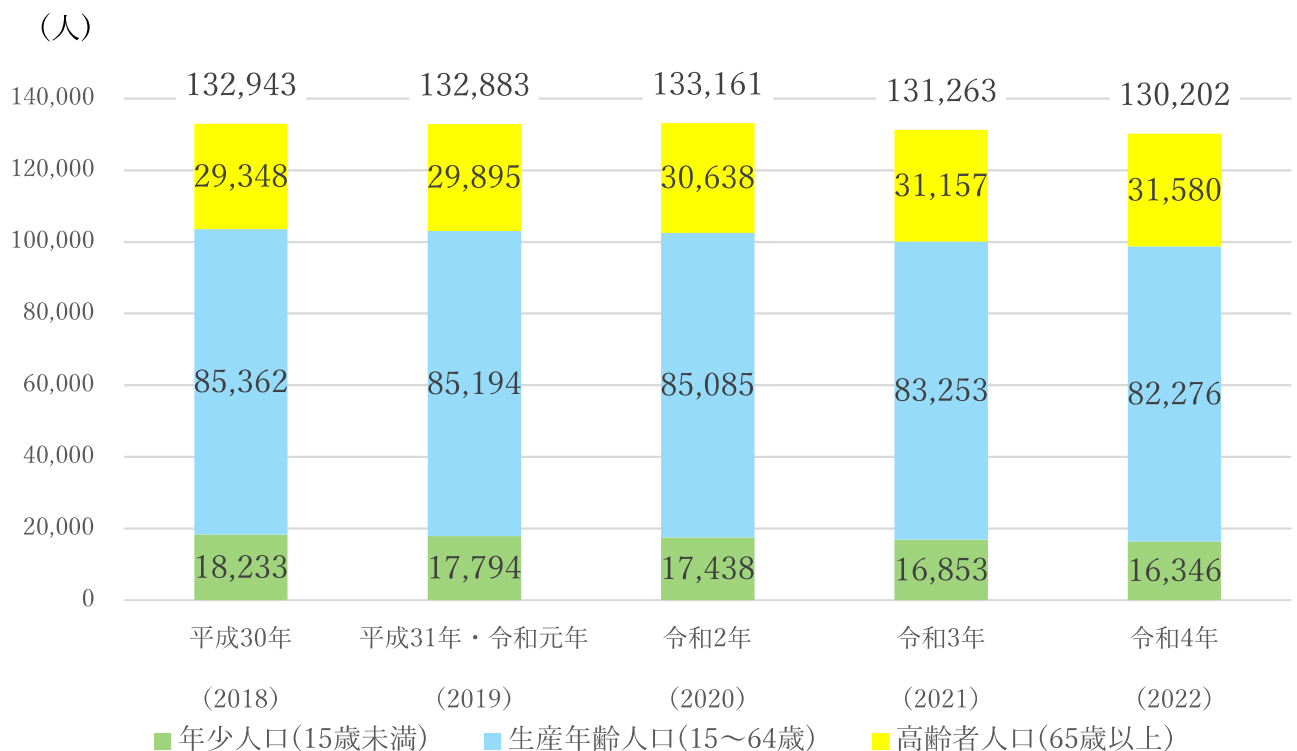
#### ■人口は減少傾向

本市の人口は減少傾向にあり、令和4(2022)年では130,202人となっています。年齢3区分人口をみると、高齢者人口は増加を続け、令和4(2022)年は31,580人、高齢化率は24.3%となっています。また、生産年齢人口及び年少人口については減少が続いており、令和4(2022)年の生産年齢人口は82,276人、生産年齢人口比率は63.2%、年少人口は16,346人、年少人口比率は12.6%となっています。

世帯数は令和2(2020)年以降減少し、令和4(2022)年は62,792世帯となっており、1世帯あたり人員は2.07人と減少が続いています。

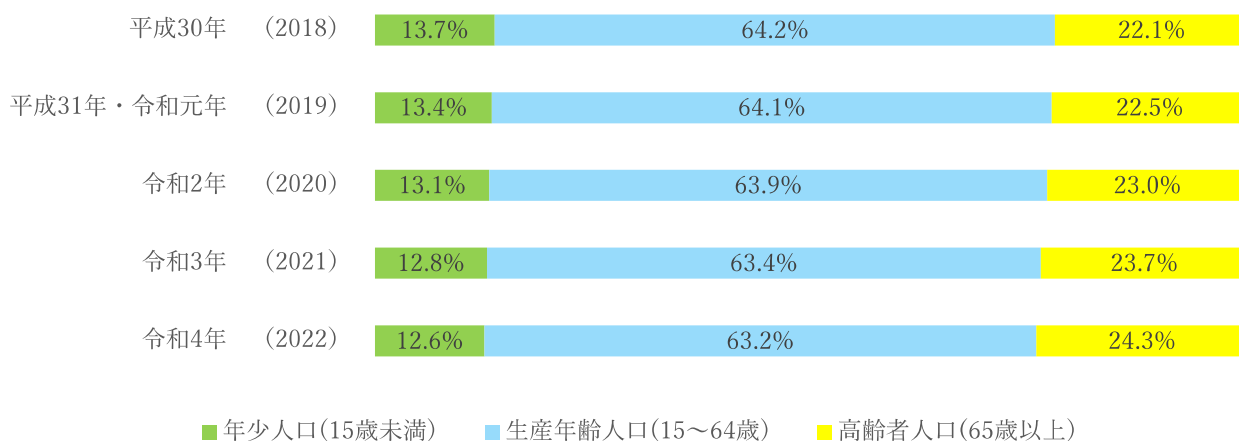
しかしながら、今後の人口推移については、成田空港の更なる機能強化や本市で実施する施策の効果により令和27(2045)年まで増加が見込まれています。(資料：成田市人口ビジョンより)

人口・年齢3区分別人口の推移



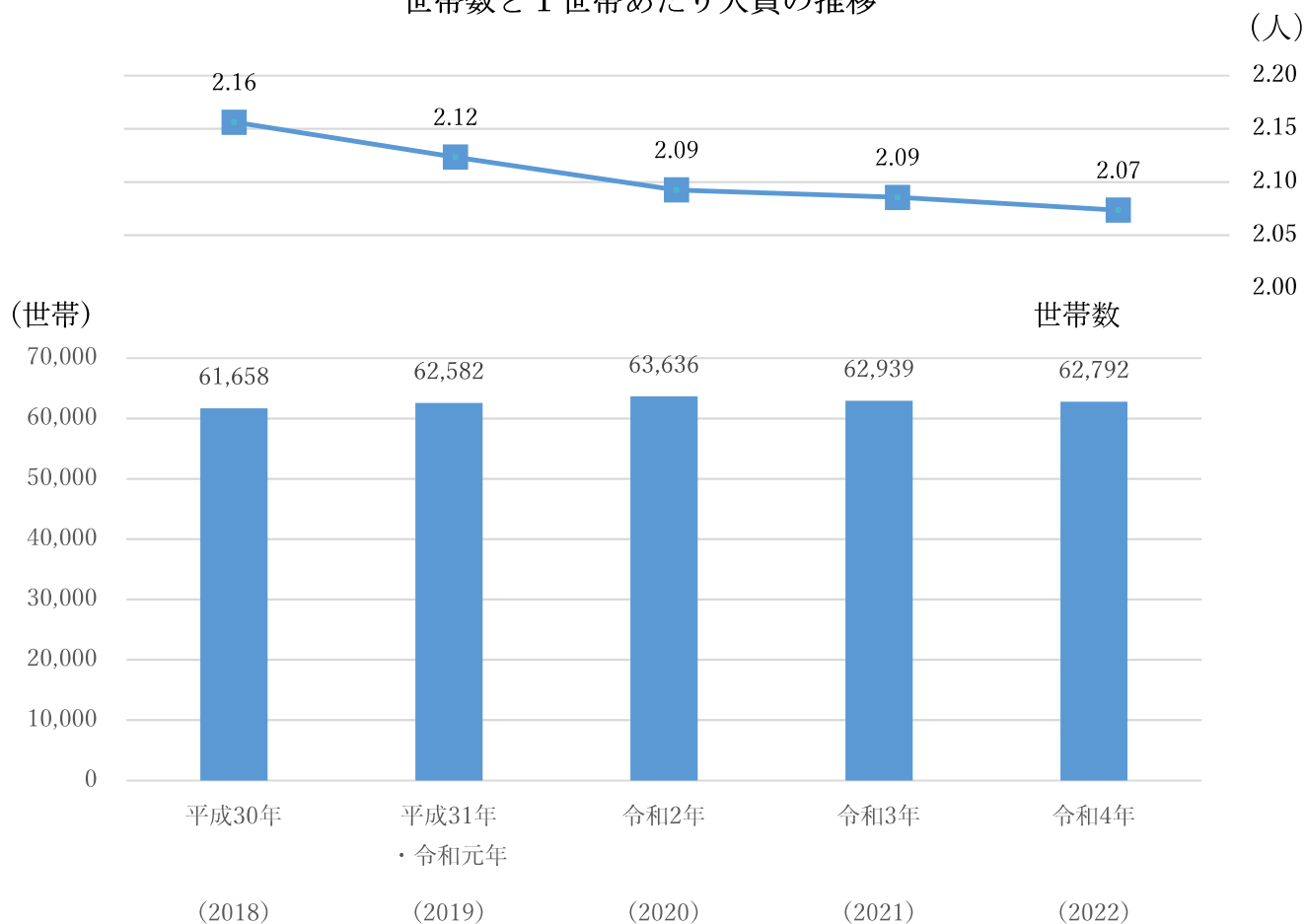
資料：千葉県年齢別・町丁字別人口（各年4月1日現在）

### 年齢3区分人口構成比の推移



資料：千葉県年齢別・町丁字別人口（各年4月1日現在）

### 世帯数と1世帯あたり人員の推移

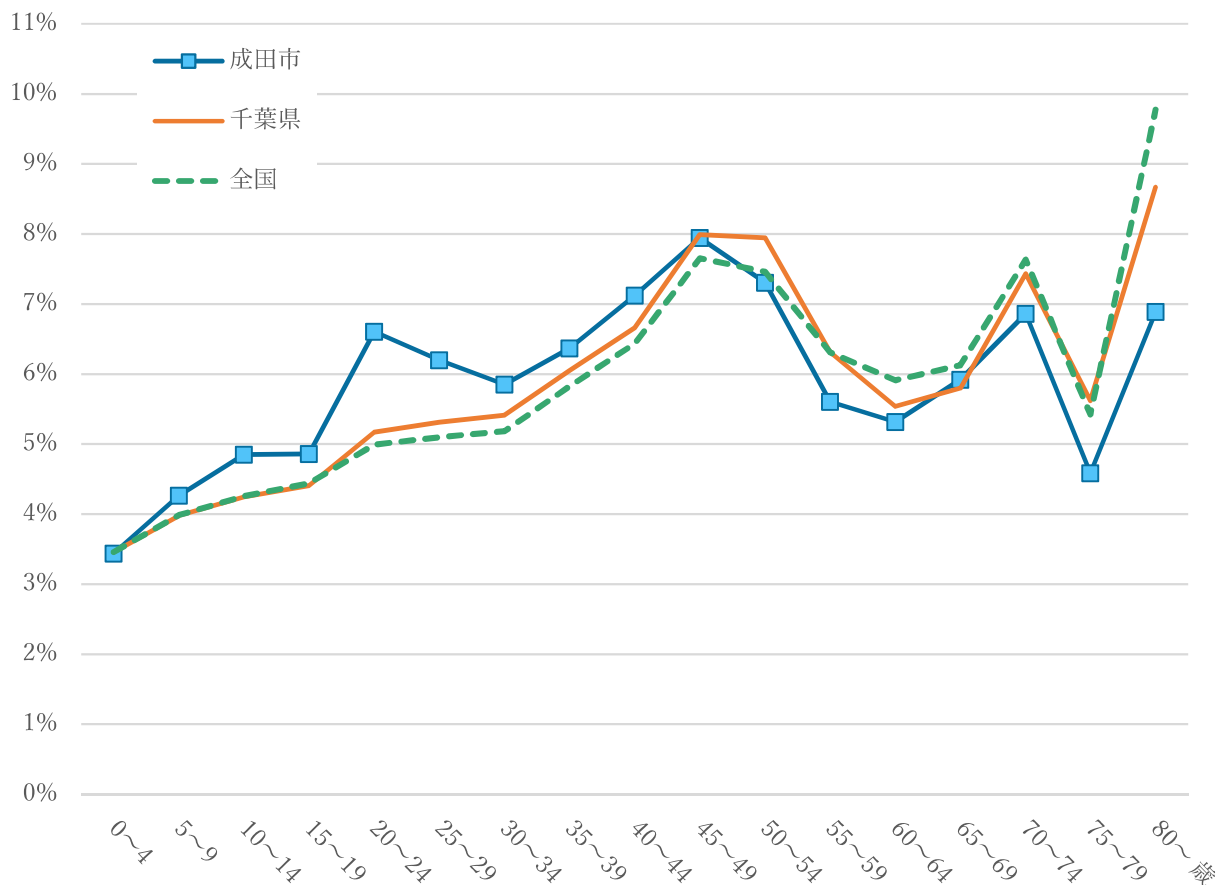


資料：千葉県年齢別・町丁字別人口（各年4月1日現在）

### ■働き盛りの世代が多い

令和4（2022）年の年齢別人口構成比を国・県と比べると、本市では5～44歳までの割合が大きく、一方、50～64歳、70～80歳以上の構成比が低いことがわかります。

年齢別人口構成比の比較



資料：千葉県年齢別・町丁字別人口 令和4（2022）年4月1日現在  
総務省統計局人口推計 令和4（2022）年4月1日現在

## (2) 農業



### ■全国でも有数のさつまいもの産地

本市では、総面積のうち約36%が農地（田畑）として利用されています。（資料：令和3年版成田市統計書より）

農家人口は減少が続いており、令和2（2020）年 5,055人となっています。販売農家は、令和2（2020）年 1,391戸ですが、農家人口に比例し、減少が続いています。また、主業農家についても、減少が続いており、令和2（2020）年では404戸となっています。

令和2年市町村別農業産出額（推計）によると、米が県内で3位、さつまいもなどのいも類が県内1位、全国2位となっています。

### 農家人口と農家数

単位：人、戸（経営体）

		平成17 (2005)年 <sup>※1</sup>	平成22 (2010)年	平成27 (2015)年	令和2 (2020)年
農家人口 <sup>※2</sup>		11,509	9,046	6,635	5,055
農家数	販売農家	2,493	2,067	1,651	1,391
	自給的農家	346	453	511	465
	農家総数	2,839	2,520	2,162	1,856
主副業別	主業 <sup>※2</sup>	738	641	488	404
	準主業 <sup>※2</sup>	587	499	298	190
	副業的 <sup>※2</sup>	1,168	927	865	798

資料：農林業センサス（各年2月1日現在）

※1 平成17（2005）年は旧3市町の合計

※2 平成27（2015）年までは販売農家、令和2（2020）年は個人経営体における数値

## ■学校給食では年間を通して成田産食材を活用

本市では、児童生徒が地域の自然や食文化、身近な生産者の方々の努力や食に対する関心を深めることができるよう成田産食材の活用を図っています。

成田産食材の給食活用状況 令和3（2021）年度



■ …食材の使用月を示しています

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
米	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
人参	■	■	■	■							■	■
大根			■				■	■	■	■		
長ネギ								■		■		
玉ねぎ		■	■									
じゃがいも			■	■								
さつまい芋	■		■			■	■	■	■	■	■	■
ごぼう				■								
レンコン	■	■	■	■		■	■	■	■	■	■	■
ほうれん草		■	■									
キャベツ	■	■		■				■	■	■	■	
小松菜	■	■	■			■	■	■	■	■	■	■
チンゲン菜		■	■								■	
白菜								■				
きゅうり	■	■	■			■	■	■	■	■	■	■
かぶ										■		
とうもろこし				■								
ブロッコリー								■	■			
トマト			■									
セロリ	■											
青ピーマン			■									
メロン				■								
栗						■	■					

資料：学校給食センター

## ■市民農園と農業体験教室

本市では、自然とふれあえる場として、市民農園の貸し出しを行っています。

本市で管理している市民農園のほかに、民間で経営管理をしている農園が6つあり、それぞれ多くの方々が利用されています。

また、親子農業体験教室と題して、自然とふれあい、収穫の喜びを感じようと、毎年、親子で参加できるイベントを実施しています。

### 市民農園の設置状況

単位：区画

農園名	地区	区画数
成田市民農園（市営）	十余三	123
御料ふれあい農園	三里塚御料	28
並木町ふれあい農園	並木町	124
山王ふれあい農園	公津の杜	100
台畑農園	北須賀	42
京相農園	八代	35
坂田ヶ池ファーム	大竹	18

資料：農政課 令和4（2022）年8月現在



## 親子農業体験教室の参加状況

単位：組、人

	参加家族数	参加者数
平成 30 (2018) 年度	25	103
平成 31・令和元 (2019) 年度	14	54
令和 2 (2020) 年度※		
令和 3 (2021) 年度	12	52
令和 4 (2022) 年度	9	37

資料：農政課

※令和 2 (2020) 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により実施していない。

<市内で行われている農業体験教室の様子>



### (3) 食育に関する民間の活動

#### ■「ちば食育ボランティア」の活動状況

「ちば食育ボランティア」は、学校教育や地域活動の場で「食」や「農林水産」に関する知識や経験などを話したり、郷土料理などの調理実習、農業体験の受け入れなどを実施したりするボランティアです。

本市には「ちば食育ボランティア」の登録者が9人います。

#### 本市におけるちば食育ボランティアの登録人数

単位：団体、人

	成田市						千葉県
	登録分野						
	食生活改善	地産地消	農林水産業	料理	その他「食」や「農」に関するもの		
団体登録者	—	—	—	—	—	—	3,577
個人登録者	9	3	4	2	3	1	164
合計	9	3	4	2	3	1	3,741

資料：千葉県「ちば食育ボランティア名簿」 令和4（2022）年6月現在

※登録分野は複数登録されているため合計は一致しない。

#### ■環境にやさしい農業への取り組み

千葉県では、環境にやさしい農業を進めるため、化学合成農薬と化学肥料を通常の2分の1以下に減らして栽培した農産物を「ちばエコ農産物」として認定しています。

市内には、「ちばエコ農産物」を取り扱っている直売所やスーパーなどの販売協力店が9店舗あります。

「ちば食育サポート企業」は、企業が独自に行う食育活動、または、公的機関や「ちば食育ボランティア」が実践する「食育」活動に支援・協力している企業として、千葉県が募集し登録した企業です。千葉県や市町村、学校、幼稚園、保育所等、ちば食育ボランティアが主体となって行う食育活動にあたり、見学の受け入れ、講師の派遣、調理施設の提供などの支援・協力をしています。

#### ちばエコ農産物販売協力店舗数・ちば食育サポート企業数

単位：店舗、企業

項目	成田市	千葉県
ちばエコ農産物販売協力店舗数 令和4（2022）年3月31日現在	9	396
ちば食育サポート企業数 令和4（2022）年4月1日現在	2	77

資料：千葉県

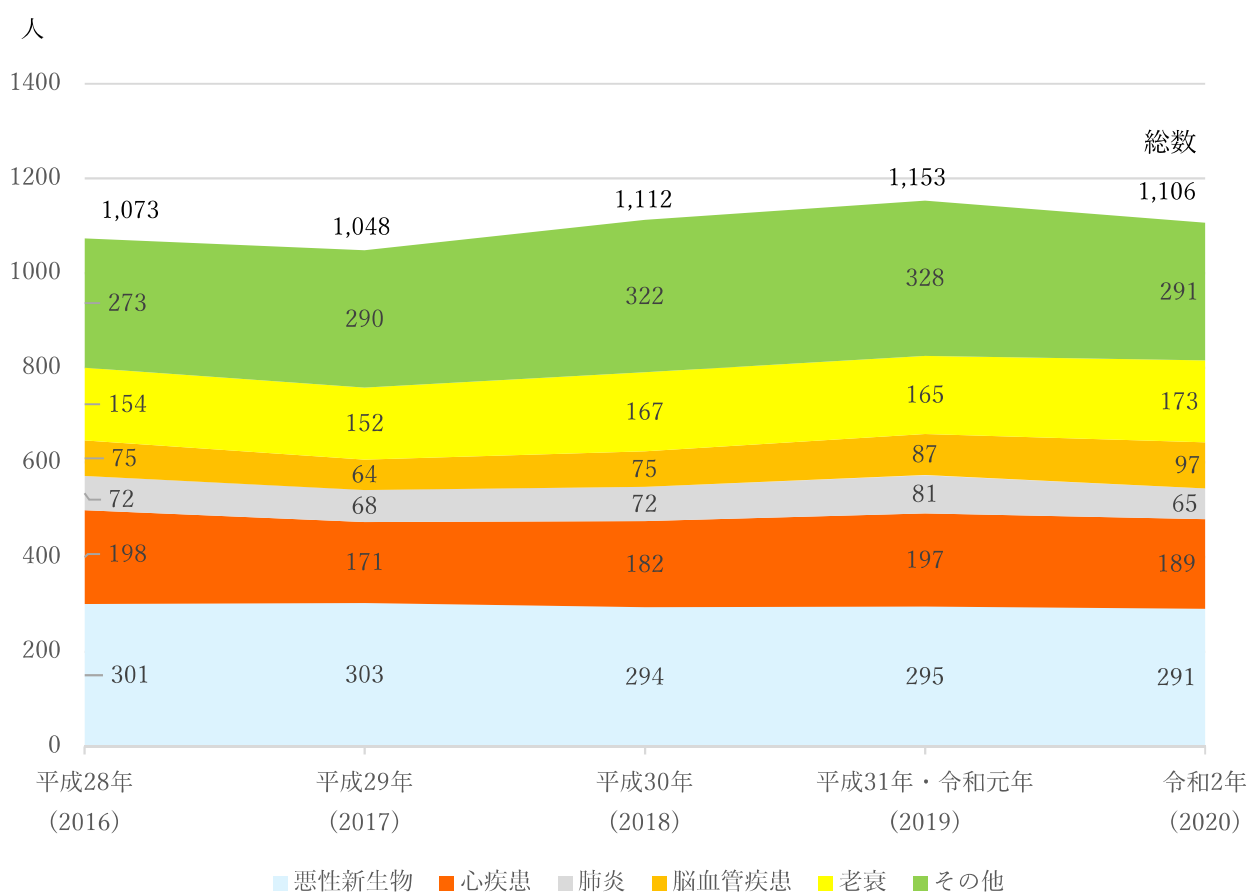


## (4) 健康の状況

### ■生活習慣病による死亡者が半数

主要死因別死亡者数は、悪性新生物（がん）、心疾患、老衰、脳血管疾患が上位で推移していますが、生活習慣病による死亡者が半数を占めています。生活習慣病には、日常の食習慣などが深く関わっていることから、栄養バランスを考えた毎日の食生活が大切となります。

本市における主要死因別死亡者数の推移



資料：千葉県衛生統計年報

### ■平均自立期間は、65歳から男性が約18年、女性が約21年

平均余命<sup>※1</sup>は、平成30（2018）年時点で、65歳男性 19.34年、65歳女性 23.94年と伸びています。

一方で、県と比較すると男性、女性いずれも本市はやや下回ります。

平均自立期間<sup>※2</sup>は、平成30（2018）年時点で、65歳男性 17.91年、65歳女性 20.78年と伸びています。

一方で、県と比較すると男性、女性いずれも本市はやや下回ります。

※1 平均余命

ある年齢の人々がその後生きられる平均の年数。

※2 平均自立期間

日常生活に介護を要しない、要介護2以上の認定を受けるまでの期間。

### 平均余命と平均自立期間の推移

単位：年

	65歳男性			
	平均余命		平均自立期間	
	平成26 (2014)年	平成30 (2018)年	平成26 (2014)年	平成30 (2018)年
千葉県	19.05	19.61	17.47	18.03
成田市	18.39	19.34	17.10	17.91

	65歳女性			
	平均余命		平均自立期間	
	平成26 (2014)年	平成30 (2018)年	平成26 (2014)年	平成30 (2018)年
千葉県	23.61	24.27	20.27	20.91
成田市	23.14	23.94	20.38	20.78

資料：千葉県健康情報ナビ

## 2 食に関する意識調査

食に関する実態や、食育に関するニーズを把握するため、一般市民及び小学5年生、中学2年生、高校2年生、外国人を対象に、アンケート調査を令和4（2022）年に実施しました。

なお、比較で掲載している前回調査は、平成28（2016）年度のアンケート調査の結果です。

### ○調査の概要

項目	①一般市民調査	②小中学生調査	③高校生調査	④外国人調査
調査対象	市内在住の20歳以上の市民※	市内公立小中学校に通う小学5年生・中学2年生の児童生徒全員（義務教育学校含む）	市内公立高等学校に通う高校2年生の生徒全員	ALT関係者
調査方法	紙アンケート （郵送）	WEBアンケート	WEBアンケート	紙アンケート （個別配付）
調査期間 （調査日）	令和4（2022）年 2月14日～3月31日	令和4（2022）年 2月14日～3月31日	令和4（2022）年 6月13日～7月29日	令和4（2022）年 7月26日
抽出数	2,000件	2,399件	821件	47件
有効回収数	844件	2,059件	527件	47件
有効回収率	42.2%	85.8%	64.2%	100.0%

#### ※ 抽出条件

- 世帯内重複を除く
- 外国人を除く

#### ■食に関する意識調査を読む際の留意点

- 調査結果の比率は、その設問の回答者を基数として、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。そのため、合計が100%にならない場合があります。
- 複数回答形式の場合、回答比率の合計は通常100%を超えます。
- 掲載している表は、年代・性別の無回答者がいるため、全体と内訳が一致しません。

## (1) 市民への食育の普及

### ■「食育」に関心を持っている人の割合

一般・・・78.4%

外国人・・・42.6%

#### 【一般】

食育への関心について、「ある」(28.6%)と「どちらかといえばある」(49.8%)を合わせた『ある』は、78.4%となっています。

年代別では、「食育」に関心が『ある』との回答は、40歳代で最も高く、83.1%となっています。

また、20歳代では「どちらかといえはない」(15.4%)と「ない」(14.1%)を合わせた、「食育」に関心が『ない』との回答は、29.5%と他の年代を上回ります。

#### (前回調査との比較)

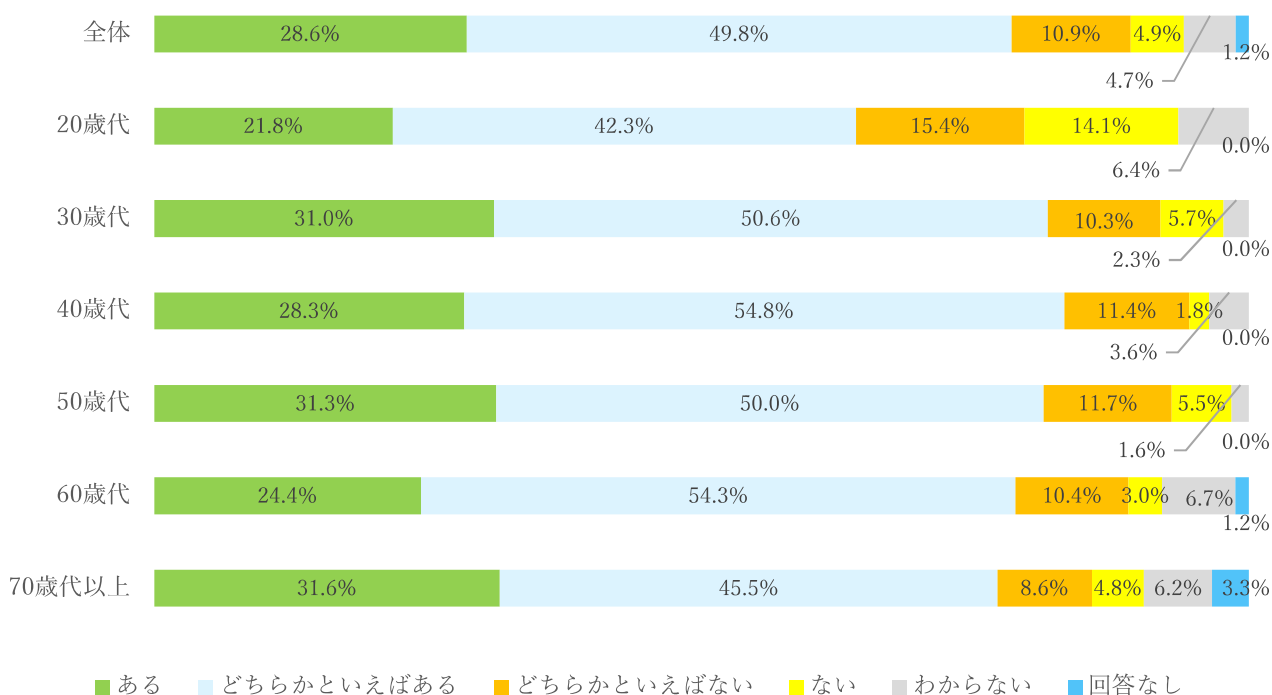
食育への関心が『ある』との回答は増加しており、関心が高まっていることがわかります。

#### 【外国人】

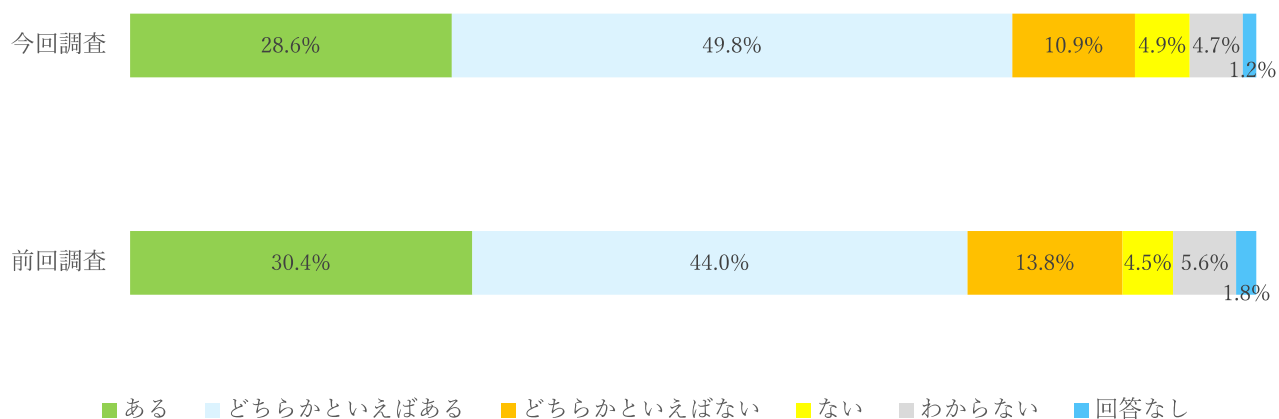
選択肢が異なるため、単純に比較はできませんが「ある」との回答は、42.6%と一般を大きく下回っています。

### 「食育」への関心について

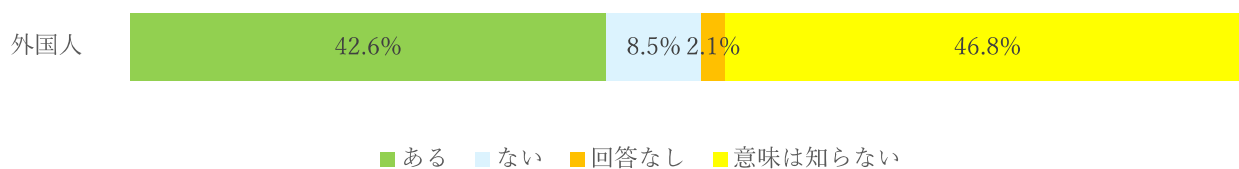
#### 【一般】



### (前回調査との比較)



### 【外国人】



## ■「食育」を実践している人の割合

一般・・・56.0%

外国人・・・38.3%

### 【一般】

食育の実践について、「積極的にしている」(6.0%)と「できるだけ、するようにしている」(50.0%)を合わせた『している』との回答は56.0%となっています。

年代別では、『している』との回答は、40歳代で最も高く、62.6%となっています。

また、20歳代では「あまりしていない」(26.9%)と「していない」(20.5%)を合わせた『していない』との回答は、47.4%と他の年代を上回ります。

### (前回調査との比較)

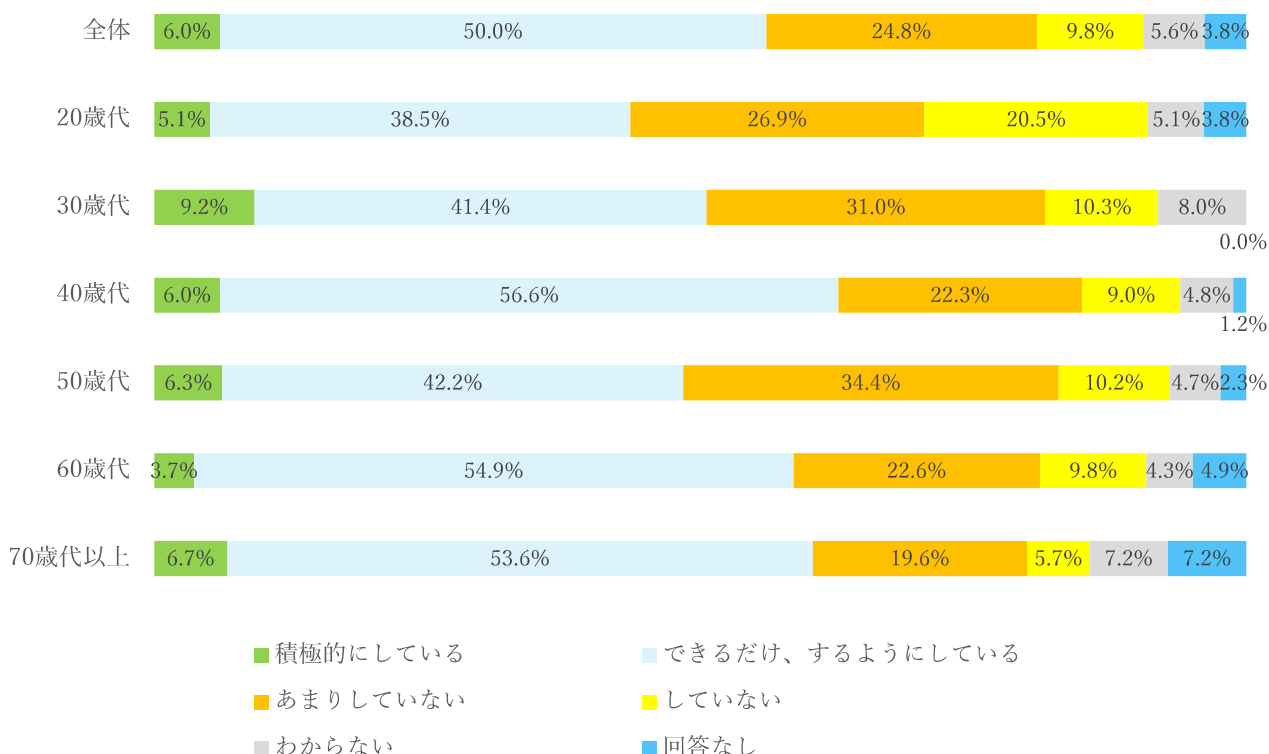
食育の実践を『している』との回答は、増加しており、関心が高まっていることがわかります。

### 【外国人】

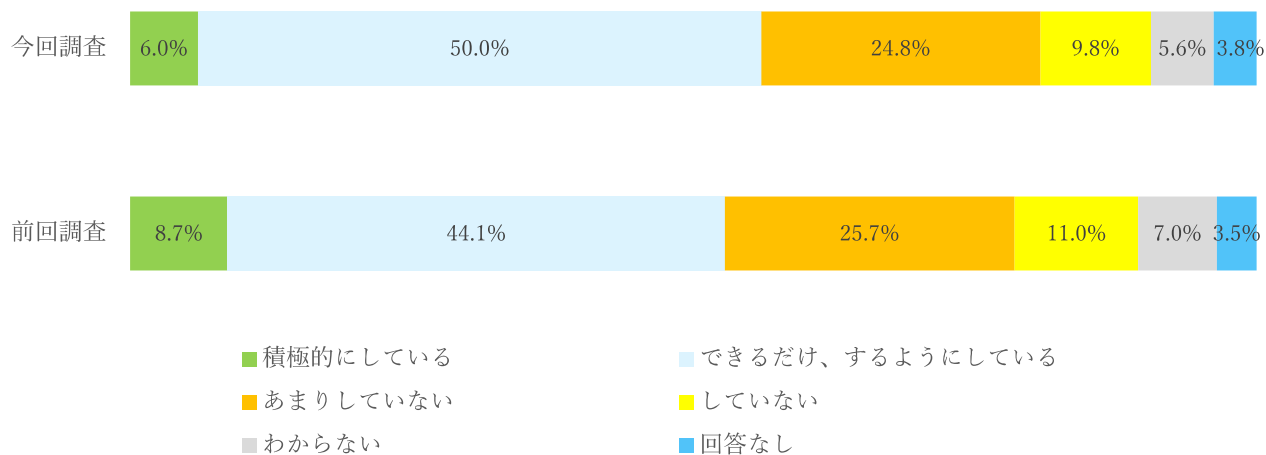
選択肢が異なるため、単純に比較はできませんが「ある」との回答は、38.3%と一般を下回っています。

## 日頃から「食育」を実践しているか

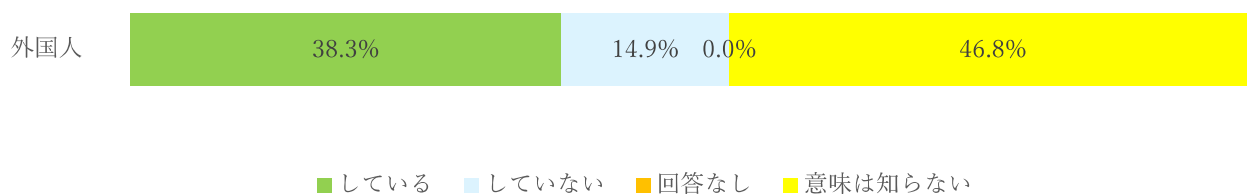
### 【一般】



### (前回調査との比較)



### 【外国人】



## (2) 健全な食生活で、元気なからだを育む

### ■「食事バランスガイド」等の食生活上の指針を参考にしている人の割合

一般・・・47.9%

外国人・・・61.7%

#### 【一般】

食生活で参考にしている指針では、「特にない」が48.0%で最も多くなっていますが、「食事バランスガイド」(22.6%)、「6つの基礎食品」(20.5%)、「3色分類」(16.0%)などが上位にあげられています。

年代別では、すべての年代で、「特にない」が最も高く、60歳代では「6つの基礎食品」との回答が他の年代を大きく上回っています。

#### (前回調査との比較)

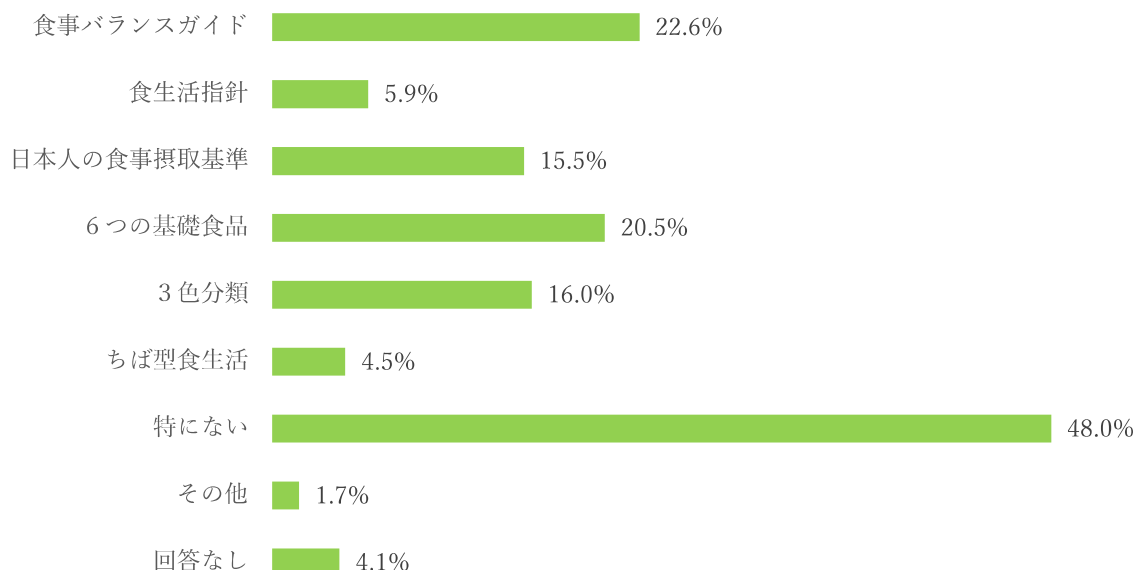
前回調査と比較すると、「特にない」との回答が増加しています。また、それに伴い「日本人の食事摂取基準」以外の指針は、今回調査では減少しています。

#### 【外国人】

健全な食生活を実践するため、栄養基準（出身国の基準も含む。）などを参考にしている人は61.7%となっており、一般を上回っています。

### 食生活で参考にしている指針（複数回答）

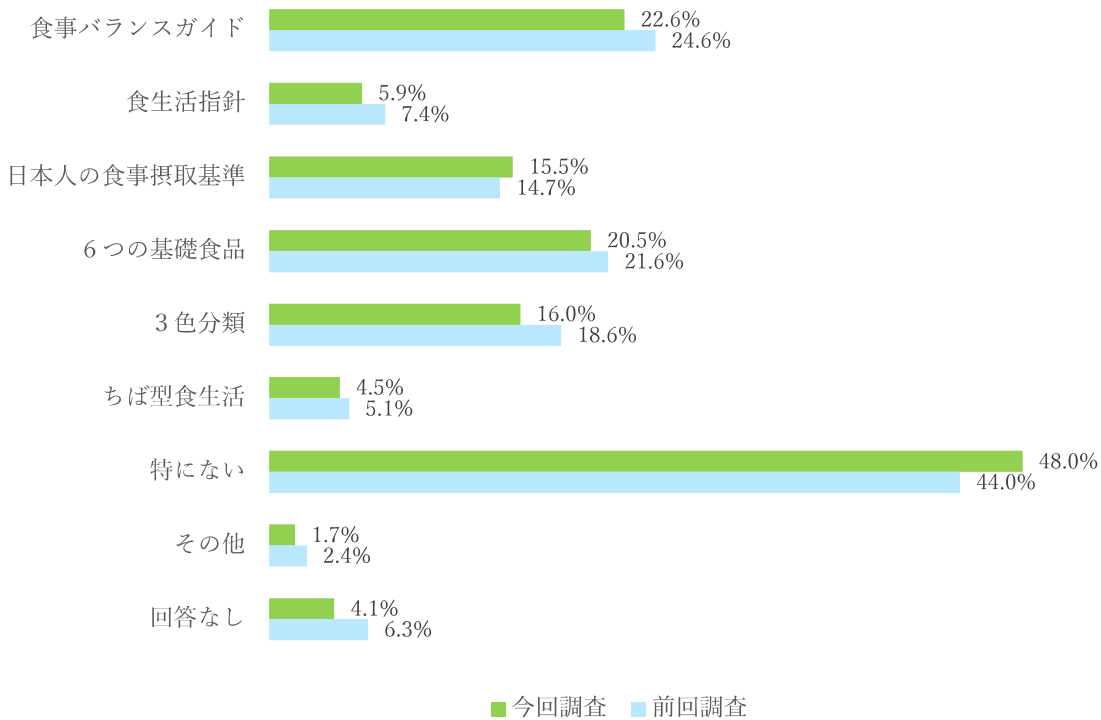
#### 【一般】



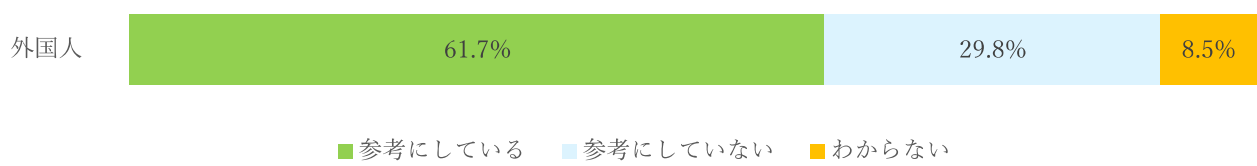


	回答者数	食事バランスガイド	食生活指針	日本人の食事摂取基準	6つの基礎食品	3色分類	ちば型食生活	特にない	その他	回答なし	
全体	844人	22.6%	5.9%	15.5%	20.5%	16.0%	4.5%	48.0%	1.7%	4.1%	
年代	20歳代	78人	21.8%	7.7%	17.9%	15.4%	19.2%	2.6%	48.7%	1.3%	2.6%
	30歳代	87人	16.1%	8.0%	19.5%	19.5%	21.8%	4.6%	46.0%	2.3%	0.0%
	40歳代	166人	25.3%	2.4%	14.5%	19.3%	17.5%	3.6%	51.8%	0.6%	0.0%
	50歳代	128人	14.1%	6.3%	17.2%	21.1%	13.3%	3.1%	50.0%	3.1%	1.6%
	60歳代	164人	28.7%	4.9%	13.4%	27.4%	17.1%	5.5%	47.6%	1.2%	3.7%
	70歳代以上	209人	23.9%	7.2%	13.9%	18.2%	12.4%	5.3%	45.0%	1.9%	11.5%

(前回調査との比較)



## 【外国人】



## ■1日2回以上栄養バランスのとれた食事を心がけている人の割合

一般・・・66.9%

外国人・・・93.6%

### 【一般】

栄養バランスのとれた食事を1日2回以上心がけているかでは、「はい」が66.9%となっています。

年代別では、年代が高くなるほど、バランスのとれた食事を心がけている人の割合が多い傾向にあります。

### (前回調査との比較)

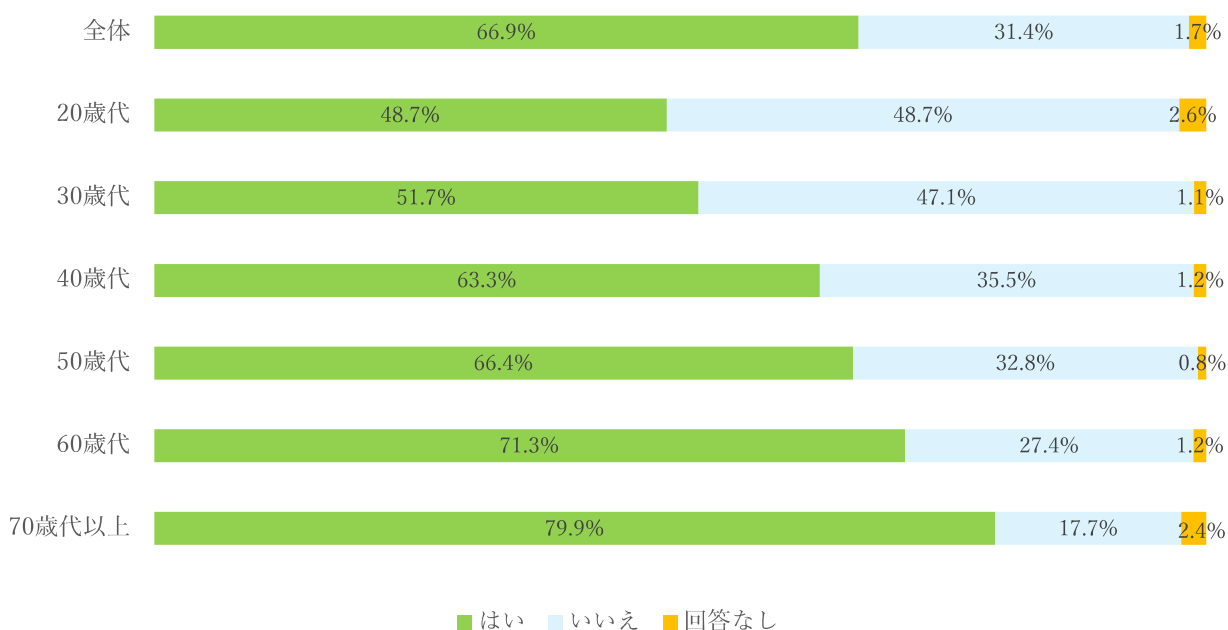
「はい」との回答は、前回調査に比べ減少しています。

### 【外国人】

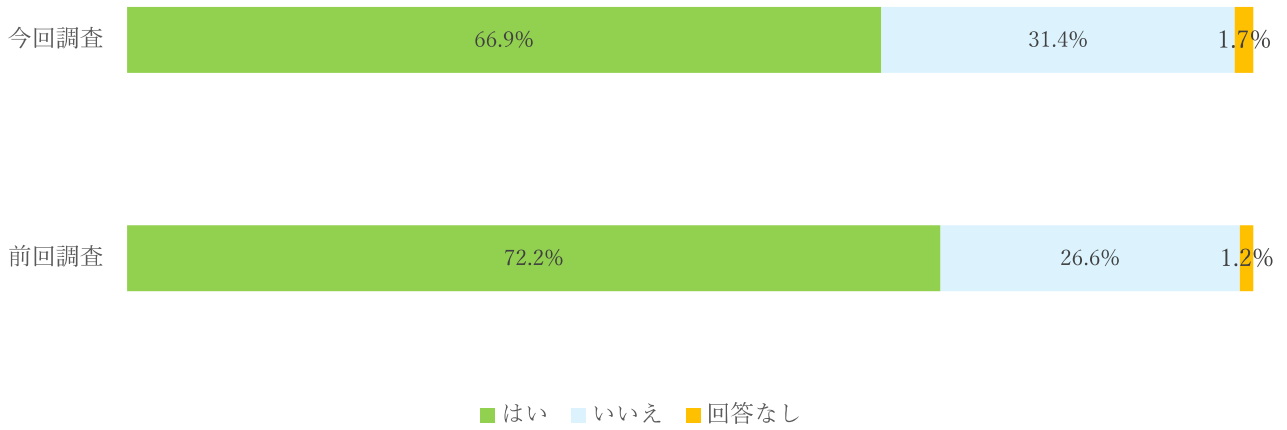
栄養バランスのとれた食事を1日2回以上心がけている人は、93.6%となっており、一般を大きく上回っています。

## 1日2回以上栄養バランスのとれた食事を心がけているか

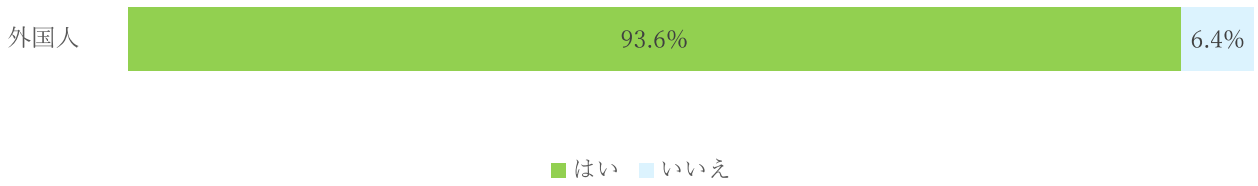
### 【一般】



(前回調査との比較)



【外国人】



## ■朝食を食べている人の割合

一般 . . . 80.7%

小中学生 . . . 83.8%

高校生 . . . 65.3%

外国人 . . . 53.2%

### 【一般】

朝食の習慣では、「ほぼ毎日食べている」が80.7%となっています。

性別では、女性に比べ男性で「ほとんど食べない」と回答する人が多くなっています。

性・年代別では、「ほとんど食べない」や「週に2～3日食べる」との回答は、20～40歳代の男性が他の年代より多く、20歳代の女性では3割を超えており、働き盛りの男性や若い女性で朝食の欠食が多い状況がうかがえます。

#### (前回調査との比較)

「ほぼ毎日食べている」との回答は、前回調査から減少し、「週に4～5日食べる」「週に2～3日食べる」「ほとんど食べない」との回答が増加しています。

### 【小中学生】

朝ごはんの習慣では、「毎日食べている」が小学5年生で85.6%、中学2年生で81.9%となっています。

学年別では、朝ごはんを『食べない』（週に1日でも食べないことがある）割合は、小学5年生に比べ中学2年生で多くなっています。

性・学年別でみると、『食べない』割合は、男女ともに中学2年生で多くなっています。

#### (前回調査との比較)

前回調査と比較すると、小学5年生・中学2年生ともに「毎日食べている」との回答は上昇しています。

### 【高校生】

朝食の習慣では、「毎日食べている」が65.3%となっており、小・中学生と比較すると、朝食欠食率は高くなっています。

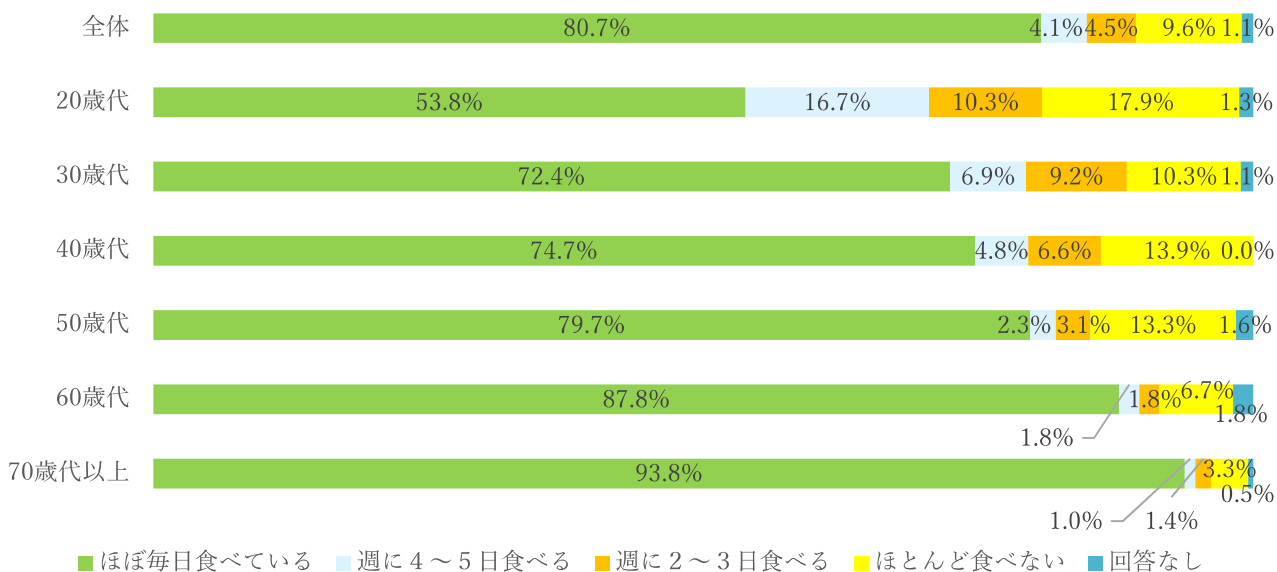
性・学年別でみると、『食べない』割合は、男子で多くなっています。

### 【外国人】

「ほぼ毎日食べている」との回答は、53.2%となっており、一般と比較すると、欠食率は高くなっています。

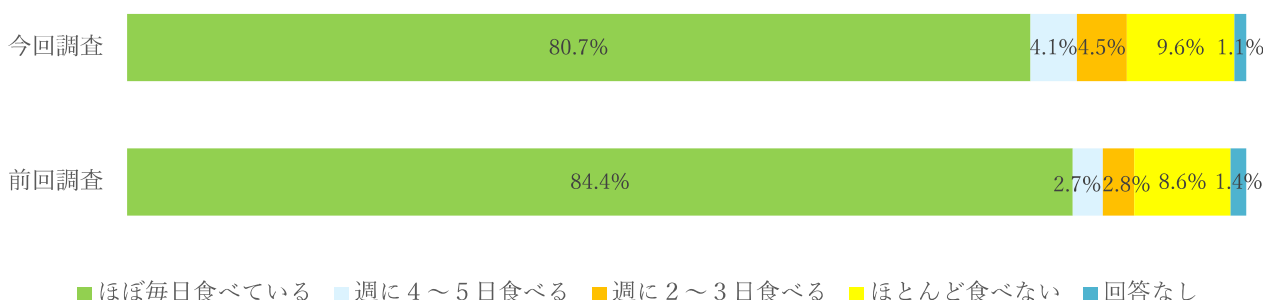
## 朝食を食べているか

### 【一般】

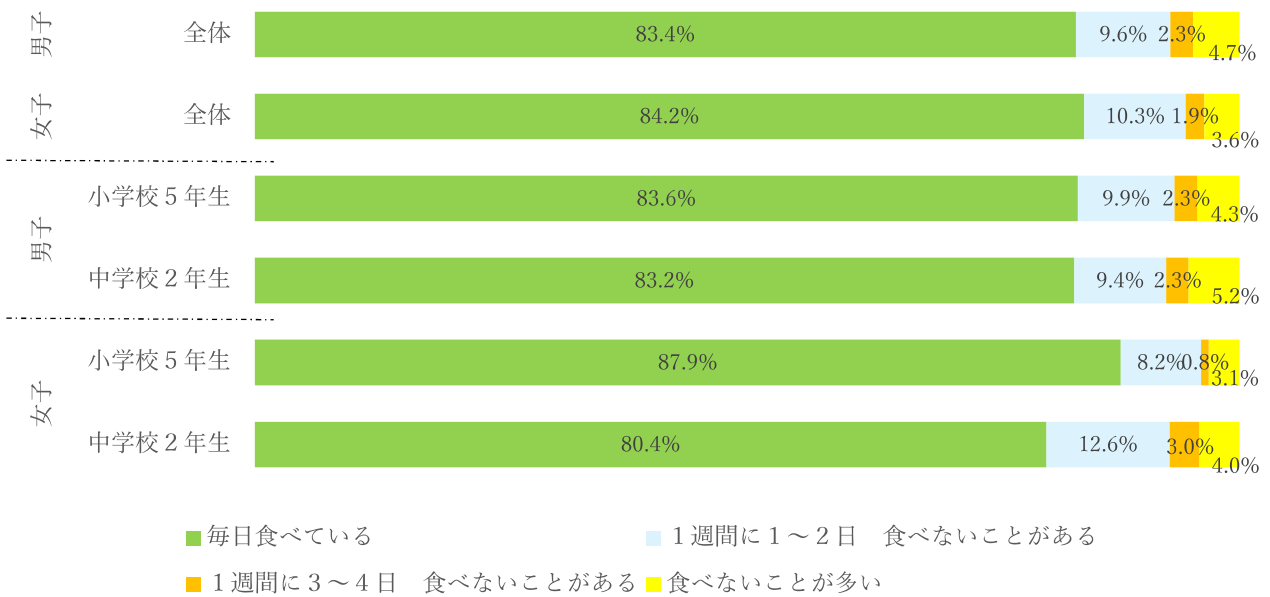
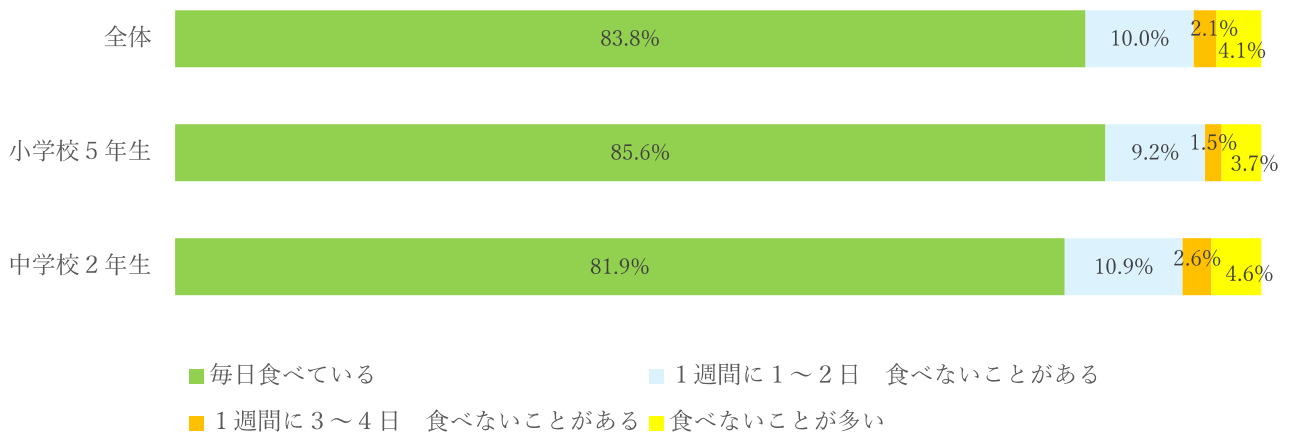


		回答者数	ほぼ毎日食べる	週に4~5日食べる	週に2~3日食べる	ほとんど食べない	回答なし
全体		844人	80.7%	4.1%	4.5%	9.6%	1.1%
性別	男性	332人	75.9%	4.8%	5.7%	11.7%	1.8%
	女性	406人	84.5%	3.7%	3.7%	7.9%	0.2%
男性	20歳代	31人	54.8%	19.4%	12.9%	9.7%	3.2%
	30歳代	37人	59.5%	8.1%	16.2%	13.5%	2.7%
	40歳代	52人	67.3%	5.8%	7.7%	19.2%	0.0%
	50歳代	60人	73.3%	3.3%	5.0%	16.7%	1.7%
	60歳代	66人	81.8%	3.0%	3.0%	9.1%	3.0%
	70歳代以上	86人	93.0%	0.0%	0.0%	5.8%	1.2%
女性	20歳代	41人	56.1%	9.8%	9.8%	24.4%	0.0%
	30歳代	50人	82.0%	6.0%	4.0%	8.0%	0.0%
	40歳代	90人	80.0%	5.6%	5.6%	8.9%	0.0%
	50歳代	55人	87.3%	1.8%	1.8%	7.3%	1.8%
	60歳代	83人	92.8%	1.2%	1.2%	4.8%	0.0%
	70歳代以上	84人	94.0%	1.2%	2.4%	2.4%	0.0%

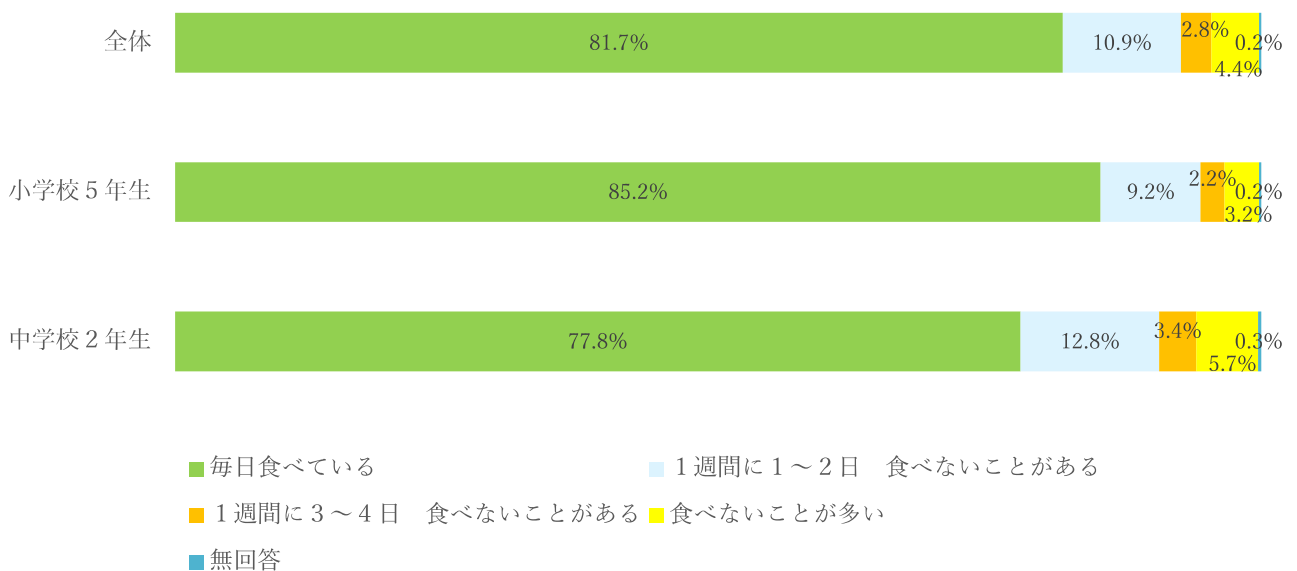
### (前回調査との比較)



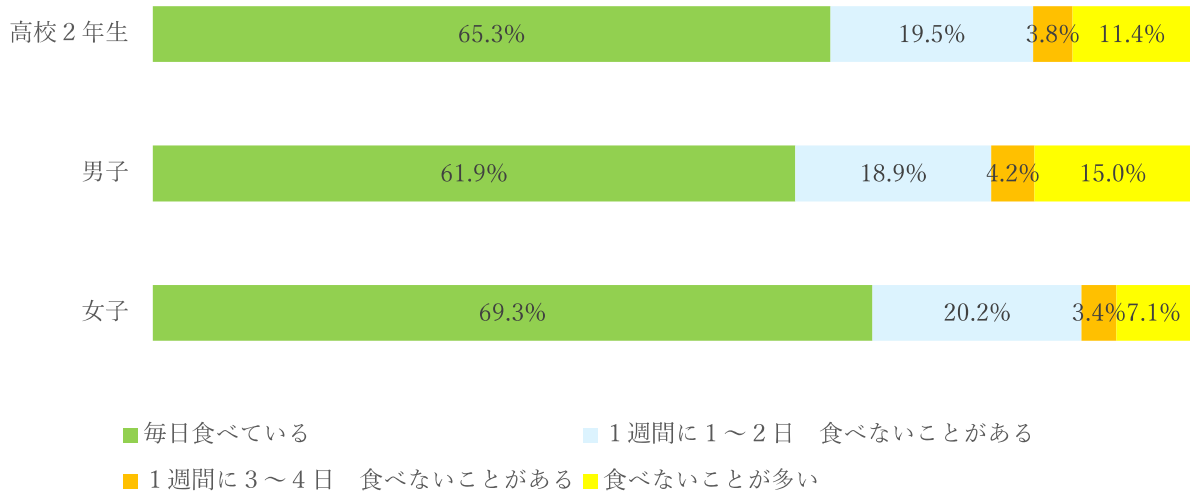
## 【小中学生】



## (前回調査)



## 【高校生】



## 【外国人】





## ■週に1回以上家族や友人と食事をする人の割合

一般 . . . 86.4%

外国人 . . . 95.7%

### 【一般】

家族、友人との食事状況は、「毎食」が35.7%で最も多く、週1回以上家族や友人と食事をしている人は、86.4%となっています。

年代別では、30歳代以上では「毎食」、20歳代では「週1～3回」との回答が最も多くなっています。また、特に40歳代では、週1回以上家族や友人と食事をしている人は、95.8%となっており他の年代を上回っています。

### (前回調査との比較)

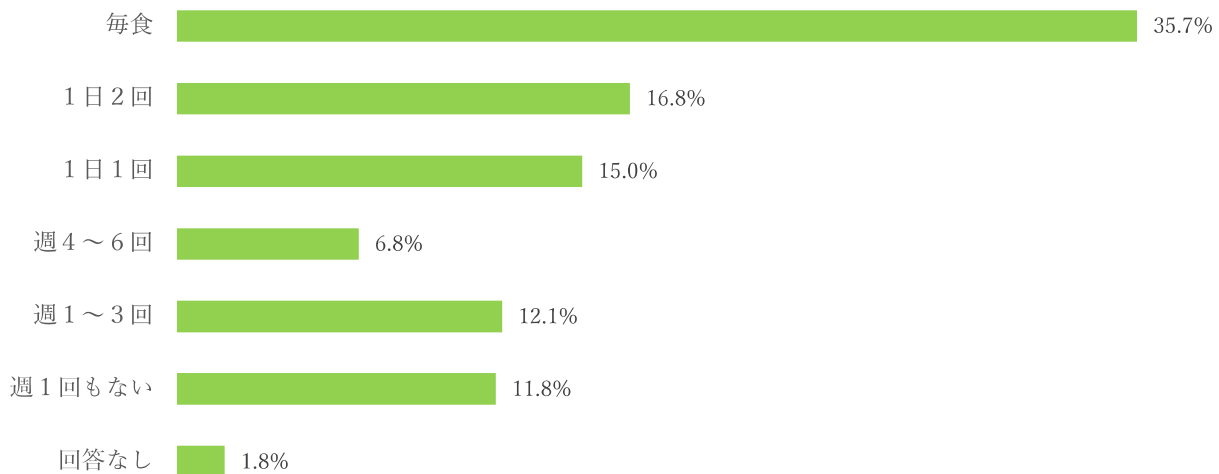
前回調査と比較すると、家族や友人との食事状況は、「週1回もない」との回答が増加しています。

### 【外国人】

週1回以上家族や友人と食事をしている人は、95.7%となっており、一般より高い割合となっています。

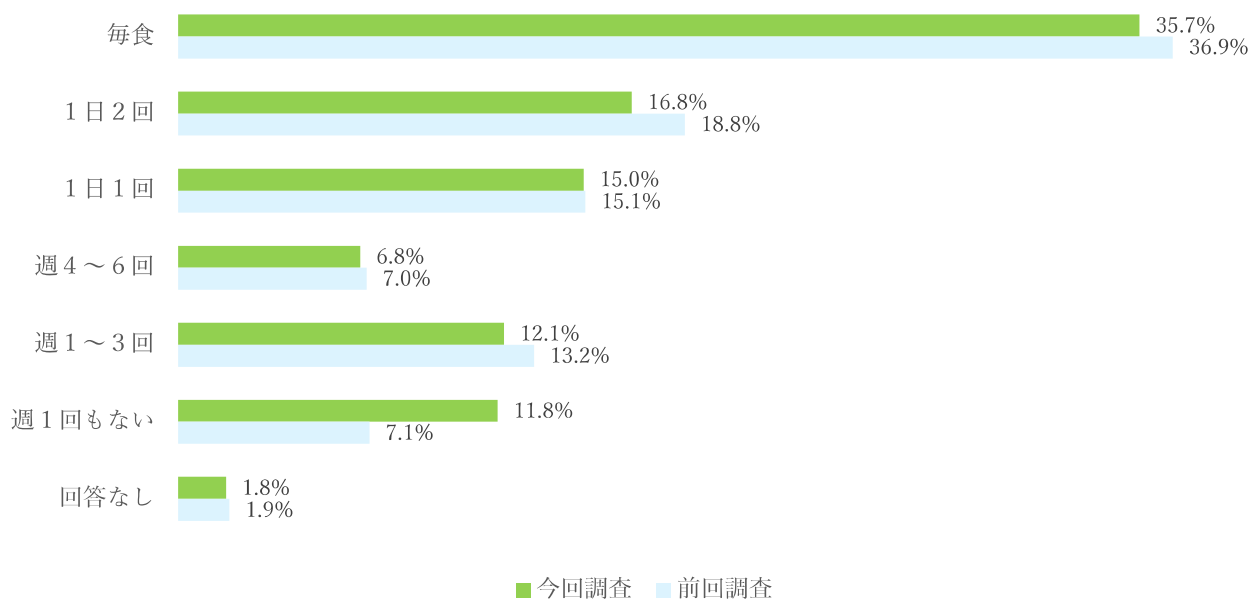
## 家族や友人と一緒に食事をする頻度

### 【一般】

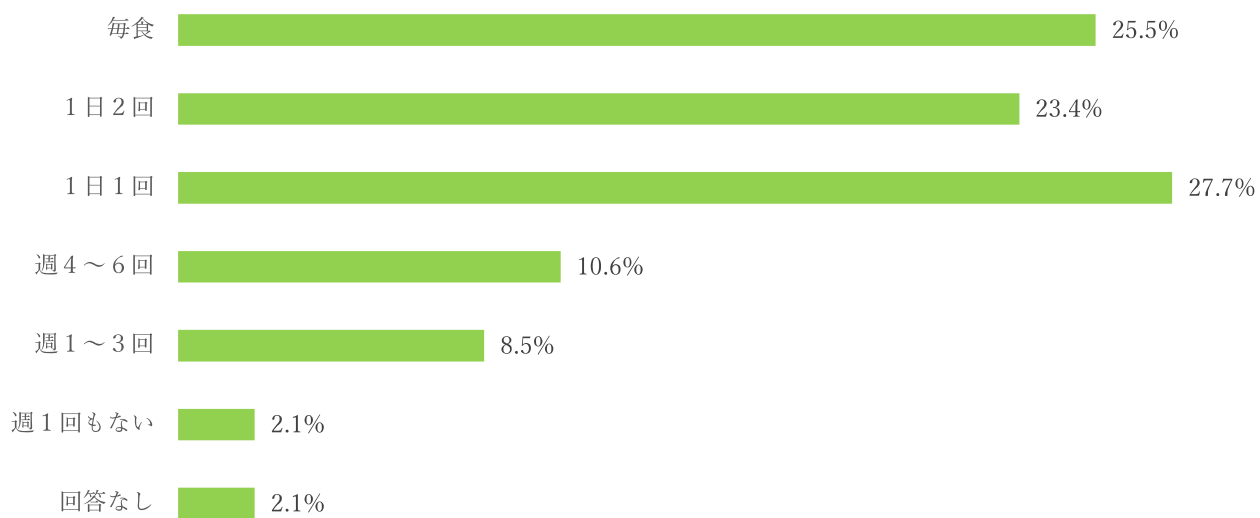


		回答者数	毎食	1日2回	1日1回	週4～6回	週1～3回	週1回もない	回答なし
全体		844人	35.7%	16.8%	15.0%	6.8%	12.1%	11.8%	1.8%
年代	20歳代	78人	17.9%	11.5%	17.9%	14.1%	20.5%	15.4%	2.6%
	30歳代	87人	34.5%	20.7%	14.9%	6.9%	12.6%	10.3%	0.0%
	40歳代	166人	28.3%	24.7%	20.5%	6.6%	15.7%	4.2%	0.0%
	50歳代	128人	31.3%	16.4%	23.4%	7.8%	10.2%	10.2%	0.8%
	60歳代	164人	42.7%	17.1%	14.0%	7.9%	6.1%	11.6%	0.6%
	70歳代以上	209人	45.5%	11.5%	6.2%	2.4%	11.5%	17.7%	5.3%

(前回調査との比較)



## 【外国人】



### (3) 安全・安心な食の環境づくり

#### ■食品を購入する際、栄養成分表示を参考にしている人の割合

- 一般・・・53.5%
- 外国人・・・76.6%

#### 【一般】

食品購入時に栄養成分表示を参考にしているかについては、「参考にしている」(15.3%)と「ときどき参考にしている」(38.2%)を合わせた『参考にしている』が53.5%となっています。

年代別では、30歳代で『参考にしている』割合が58.6%となっており、他の年代を上回っています。

#### (前回調査との比較)

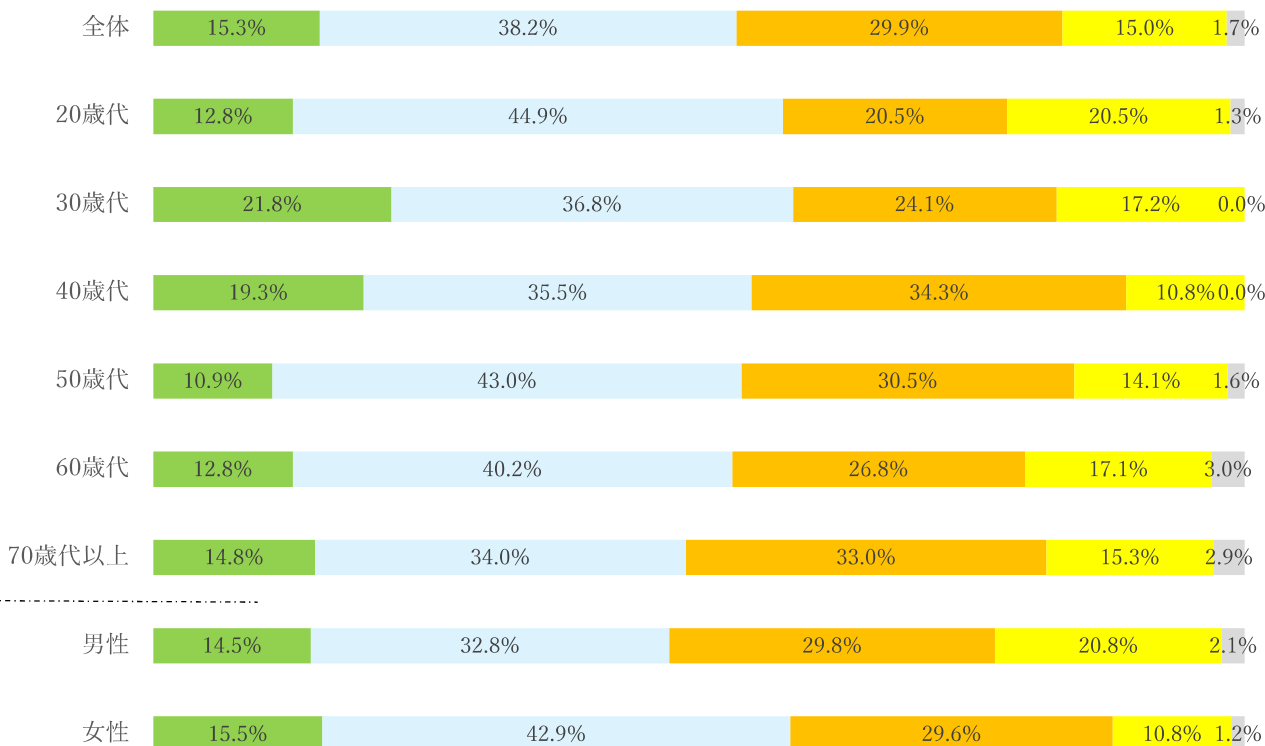
食品購入時に栄養成分表示を『参考にしている』割合は、前回調査から横ばいとなっています。

#### 【外国人】

選択肢が異なるため、単純に比較はできませんが「参考にしている」(76.6%)は一般より高い割合となっており、参考にしている人が多くなっております。

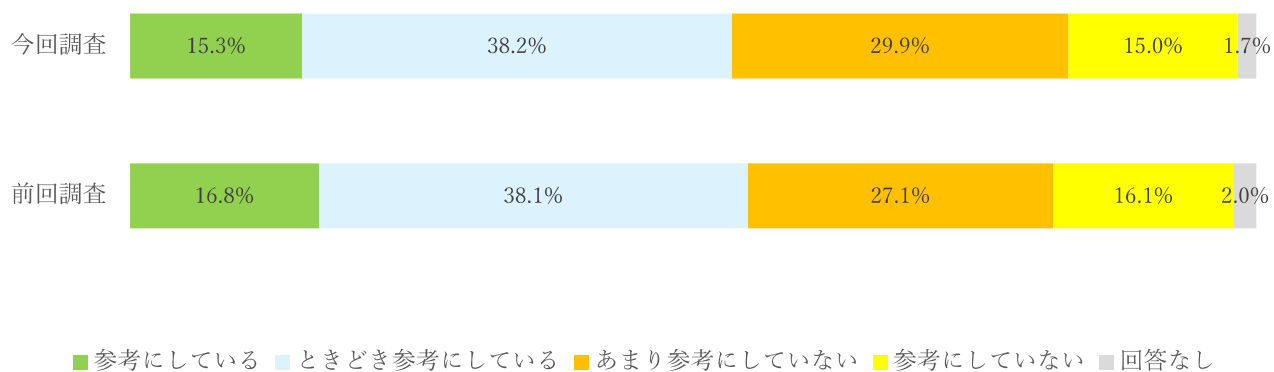
#### 食品購入時に栄養成分表示を参考にしているか

#### 【一般】



■ 参考にしている ■ ときどき参考にしていない ■ あまり参考にしていない ■ 参考にしていない ■ 回答なし

### (前回調査との比較)



### 【外国人】



## ■食べ残しなどを減らす努力をしている人の割合

一般 . . . 51.2%

外国人 . . . 87.2%

### 【一般】

食品を買いすぎない、作りすぎないなど食べ残しを減らす努力をしている人は、51.2%となっています。

(前回調査との比較)

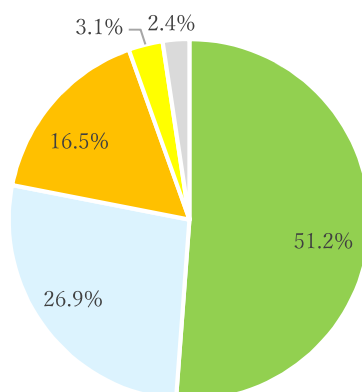
食べ残しを減らす努力をしている人の割合は、ほぼ横ばいとなっています。

### 【外国人】

選択肢が異なるため、単純に比較はできませんが「している」(87.2%)は一般より高い割合となっており、環境へ配慮している人が多くなっております。

## 食べ残しを減らす努力をしているか

### 【一般】



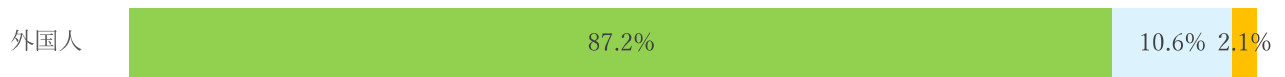
■ している ■ ときどきしている ■ 気にかけているが、なかなかできていない ■ していない ■ 回答なし

(前回調査との比較)



■ している ■ ときどきしている ■ 気にかけているが、なかなかできていない ■ していない ■ 回答なし

## 【外国人】



■ している ■ していない ■ 回答なし

## (4) 地域の食文化の魅力発信

### ■成田市の地場産物（さつまいもや米など）の認知度

一般	・・・62.7%
小中学生	・・・77.8%
高校生	・・・39.7%
外国人	・・・72.3%

#### 【一般】

成田市の地場産物を知っている人は、62.7%となっています。

年代別では、70歳代以上で知っている人の割合が最も多くなっている一方、20歳代では知っている人の割合が最も少なくなっています。

#### (前回調査との比較)

成田市の地場産物を「知っている」との回答は、大幅に増加しており、認知度は高まっております。

#### 【小中学生】

成田市の有名な農産物については、「知っている」との回答が小学5年生で81.1%、中学2年生で74.3%となっています。

#### (前回調査との比較)

前回調査と比較すると、「知っている」との回答が小学5年生・中学2年生ともに、大幅に増加しており、成田市の有名な農産物の認知度が高まっております。

#### 【高校生】

成田市の有名な農産物を知っている人は、39.7%となっており、小学5年生・中学2年生と比較し、低い割合となっています。

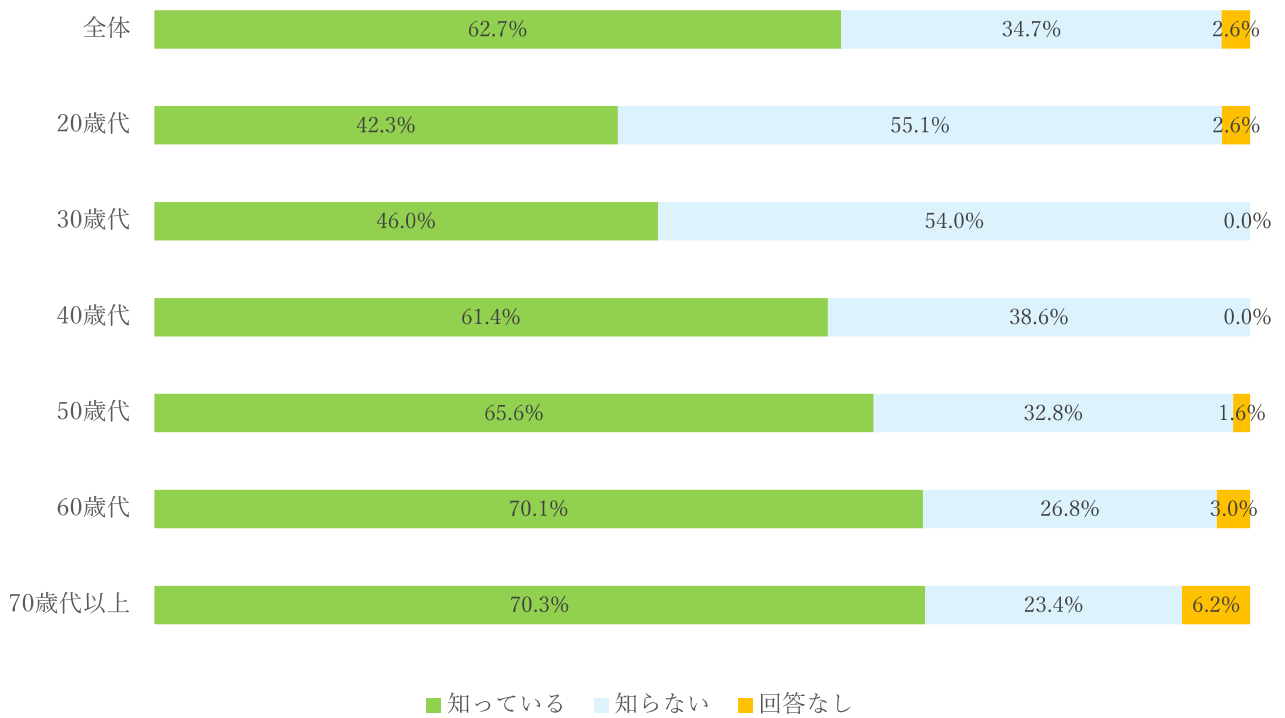
#### 【外国人】

成田市の地場産物を知っている人は、72.3%となっており、一般と比較し、高い割合となっています。

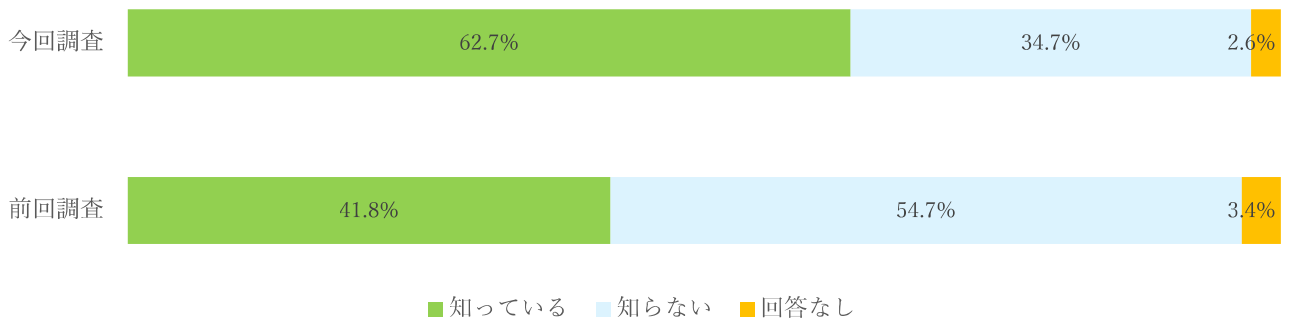


## 成田市の地場産物を知っているか

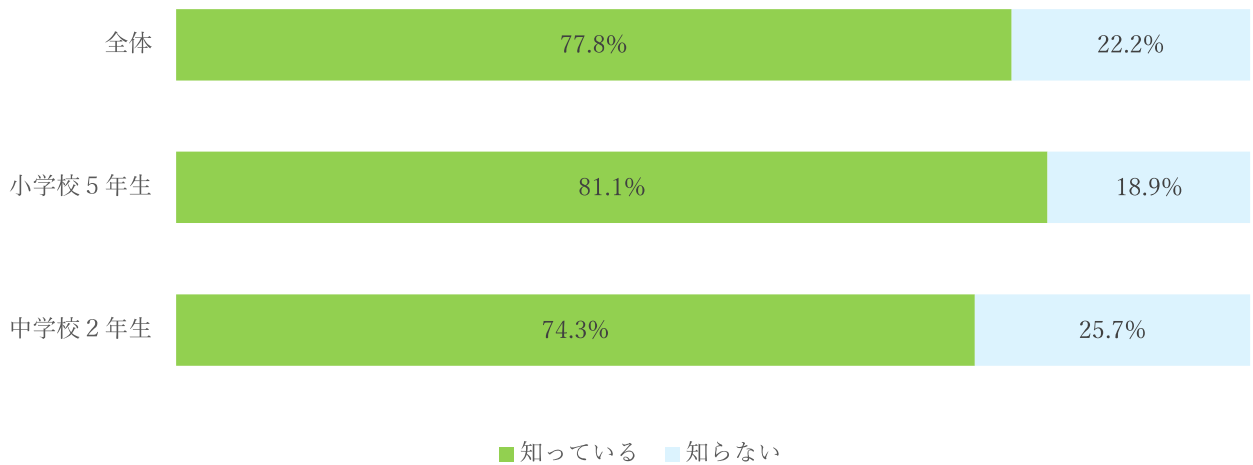
### 【一般】



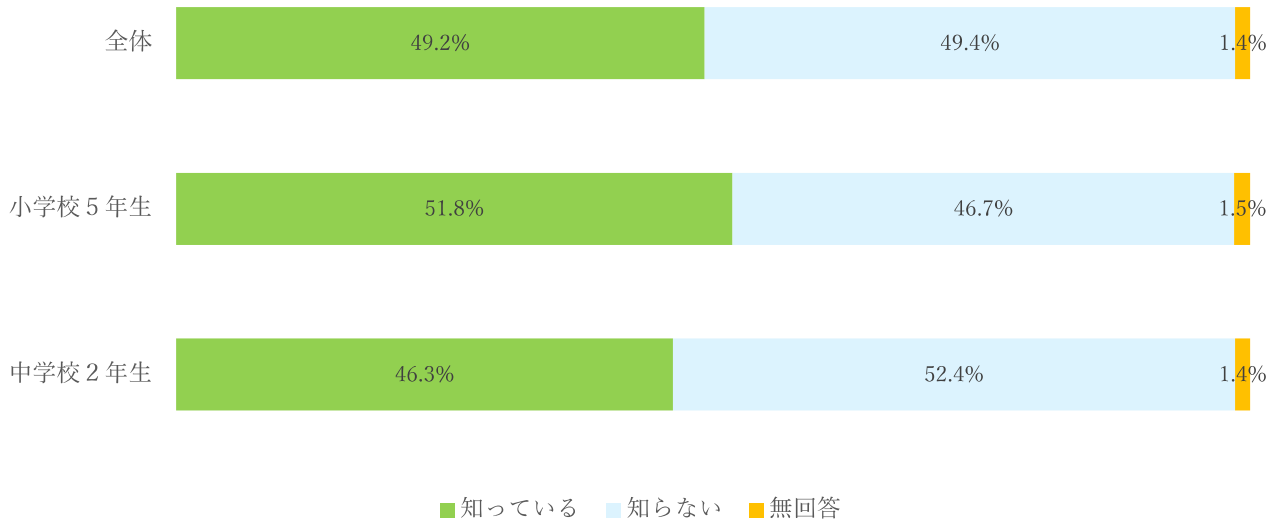
### (前回調査との比較)



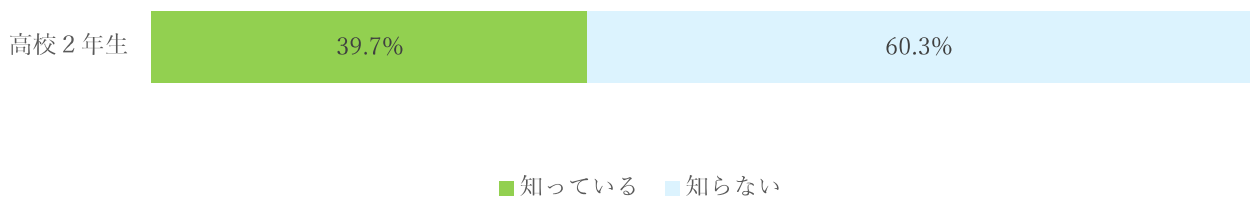
## 【小中学生】



## (前回調査)



## 【高校生】



## 【外国人】



## ■成田市の郷土料理（昔からある料理）の認知度

一般・・・15.0%

外国人・・・70.2%

### 【一般】

成田市の郷土料理を知っている人は、15.0%となっています。

また、具体的な郷土料理としては、「うなぎ料理（うなぎの蒲焼き、うなぎ重、うなぎ丼）」（74人）、「鉄砲漬け」（33人）、「太巻き寿司、祭り寿司、飾り寿司」（26人）などの料理が上位にあげられています。

### （前回調査との比較）

成田市の郷土料理を知っている人の割合は、ほぼ横ばいとなっています。

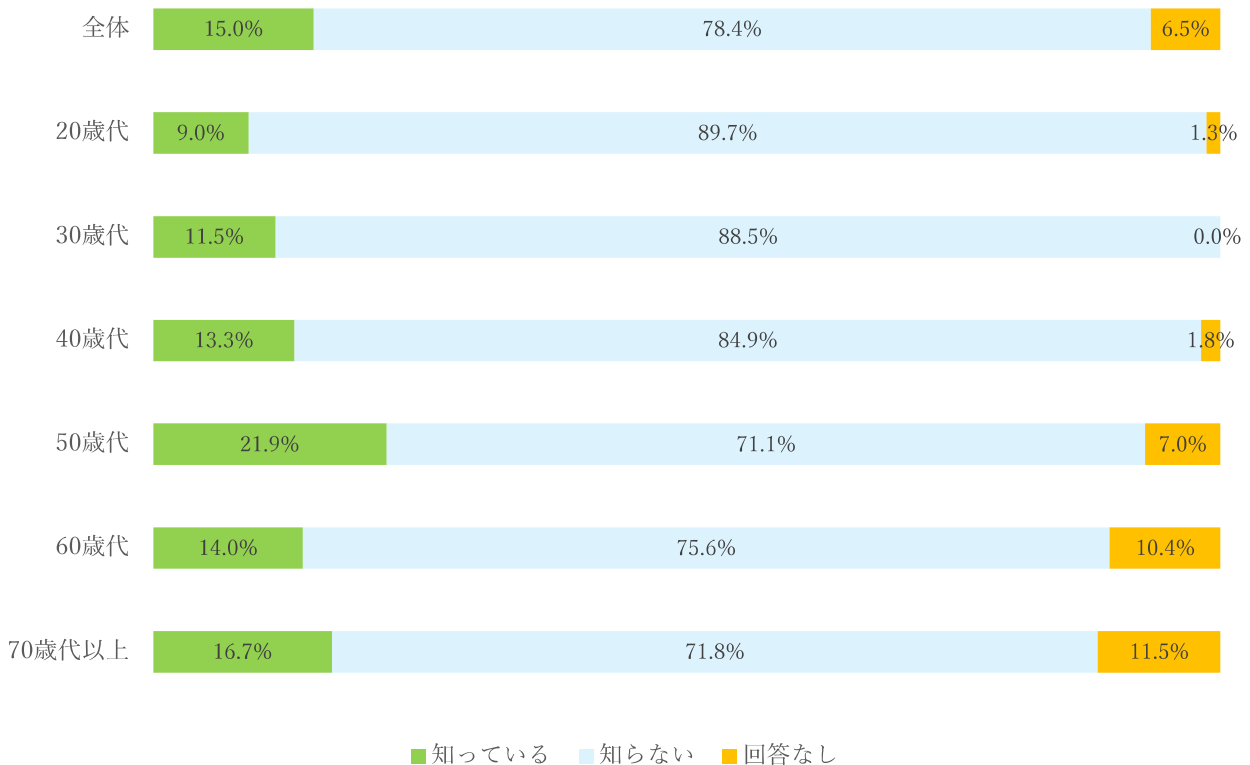
### 【外国人】

成田市の郷土料理を知っている人は、70.2%となっており、一般と比較し、高い割合となっています。

また、具体的な郷土料理としては、「うなぎ料理」（31人）、「ようかん（6人）」、「鉄砲漬けなどの漬物」（5人）などの料理が上位にあげられています。

## 成田市の郷土料理を知っているか

### 【一般】



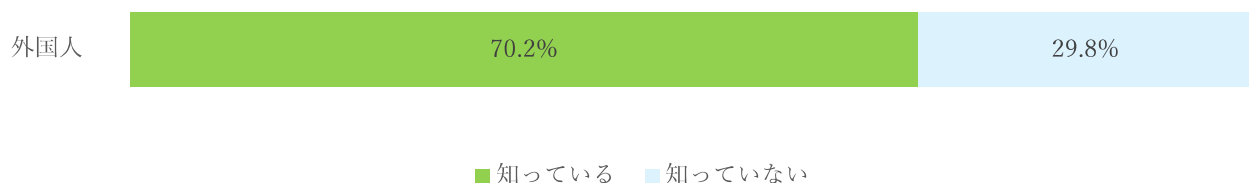
## <具体的な郷土料理>

順位	内容	人
第1位	うなぎ料理（うなぎの蒲焼き、うな重、うな丼）	74
第2位	鉄砲漬け	33
第3位	太巻き寿司、祭り寿司、飾り寿司	26
第4位	ようかん・栗ようかん	12
第5位	川魚料理（川魚の甘露煮、鯉こく、鯉の洗い）	7
第6位	ピーナッツ味噌	6
第6位	佃煮	6
第8位	きんぴら	4
第8位	大浦ごぼうの煮付	4
第8位	漬物	4
その他	（みつめの）ぼたもち、芋の煮っころがし、坊入 等	—

### （前回調査との比較）



### 【外国人】



## <具体的な郷土料理>

順位	内容	人
第1位	うなぎ料理	31
第2位	ようかん	6
第3位	鉄砲漬けなどの漬物	5
その他	黒饅頭、栗、ブルーベリー、れんこん、さつまいもなど	12

## (5) 市に期待することについて

### ■食育について、市に期待することは

#### 【一般】

市に期待する食育に関する施策では、「地元農産物を購入できる直売所などの情報を発信する」(45.5%)が最も多く、次いで「学校や幼稚園、保育園での作物栽培や、料理などの体験の機会を増やす」(36.8%)、「学校給食の充実を図る」(36.6%)が主な回答となっています。

年代別では、20～40歳代で「学校給食の充実を図る」、50歳代以上で「地元農産物を購入できる直売所などの情報を発信する」との回答が最も多くなっています。(20歳代は、「地元農産物を購入できる直売所などの情報を発信する」も同率。)

#### (前回調査との比較)

「地元農産物を購入できる直売所などの情報を発信する」、次いで「学校や幼稚園、保育園での作物栽培や、料理などの体験の機会を増やす」、「学校給食の充実を図る」という上位3項目は変わりません。

### 食育に関して市に期待すること（複数回答）

#### 【一般】

	回答者数	地元農産物を購入できる直売所などの情報を発信する	学校や幼稚園、保育園での作物栽培や、料理などの体験の機会を増やす	学校給食の充実を図る	地元農産物を購入できる直売所などの情報を発信する	市民の参加できる、体験農園を増やす	学校や幼稚園、保育園での作物栽培や、料理などの体験の機会を増やす	食品廃棄の削減や、食品リサイクルに関する活動に取り組む	郷土料理、伝統料理など、優れた食文化の伝承に努める	その他	特になし	回答なし
全体	844人	26.5%	10.9%	36.6%	45.5%	15.6%	36.8%	34.5%	17.2%	1.7%	8.2%	2.8%
年代	20歳代	78人	17.9%	12.8%	33.3%	15.4%	32.1%	28.2%	24.4%	0.0%	15.4%	1.3%
	30歳代	87人	11.5%	8.0%	60.9%	19.5%	56.3%	40.2%	14.9%	0.0%	4.6%	0.0%
	40歳代	166人	13.9%	4.8%	53.6%	21.1%	56.6%	39.8%	17.5%	3.6%	5.4%	0.0%
	50歳代	128人	28.1%	13.3%	30.5%	20.3%	34.4%	32.8%	17.2%	3.1%	5.5%	4.7%
	60歳代	164人	36.0%	13.4%	30.5%	12.8%	29.9%	32.3%	15.2%	1.2%	7.3%	2.4%
	70歳代以上	209人	37.8%	12.9%	22.5%	9.1%	22.5%	34.0%	17.2%	1.0%	11.5%	6.2%

## (前回調査との比較)

